

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	高知大学
設置者名	国立大学法人高知大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
人文社会科学部	人文社会科学科	—	106	4	14	124	13		
教育学部	学校教育教員養成課程	—		18	168	292	13		
理工学部	数学物理学科	—		10		20	136	13	
	情報科学科	—				8	124	13	
	生物科学科	—				12	128	13	
	化学生命理工学科	—				10	126	13	
	地球環境防災学科	—				16	132	13	
医学部	医学科	—		0		12	118	19	
	看護学科	—				47	153	13	
農林海洋科学部	農林資源環境科学科	—		36		22	164	13	
	農芸化学科	—				4	146	13	
	海洋資源科学科	—				6	148	13	
地域協働学部	地域協働学科	—		0	29	132	13		
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

高知大学ウェブサイト（教育情報の公表） https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	高知大学
設置者名	国立大学法人高知大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

高知大学ウェブサイト（高知大学役職員の状況） http://www.kochi-u.ac.jp/outline/jouhou_koukai/jyouhou_teikyo/yakuin-simei.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	北海道大学財務部長	R4. 4. 1- R6. 3. 31 (2年)	財務・労務管理担当
非常勤	公益社団法人高知県看護協会 会長	R4. 4. 1- R6. 3. 31 (2年)	ワークライフバランス担当
非常勤	高知弁護士会所属弁護士 行田法律事務所	R4. 4. 1- R6. 3. 31 (2年)	法務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	高知大学
設置者名	国立大学法人高知大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【全学共通】</p> <p>本学では2学期制を採用し、各学期に授業15週と試験1週の合計16週の時間を確保するよう学年暦及び年間行事予定を年度ごとに策定しています。</p> <p>授業計画(シラバス)の作成にあたっては、開講の前年度12月までに履修案内(授業の履修方法、卒業のために必要な単位数、授業時間割等を記載した冊子(全学生に配布))の作成過程で開講する授業科目を確定します。授業実施教員は、1月から2月の間に全学的に定めた統一様式へ授業計画を記載し開講主体である各学部等の確認を経て、本学のウェブサイトを通じて教務情報システムにより学内外へ公表しています。</p> <p>なお、シラバスの内容は授業科目ごとに以下の主な事項で構成されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業種別(講義、演習、実習、実験、実技) ・履修希望学生に求めるもの ・到達目標 ・授業全体の概要 ・履修にあたっての授業時間外学習 ・各回の授業概要、スケジュール及び授業時間外学習 ・教科書、参考書及び使用テキストの提示 ・成績評価の方法 ・当該授業におけるパソコンの必要度 <p>また、実務経験のある教員による授業科目においては、どのような実務経験をもつ教員が、その経験を活かしてどのような教育を行っているかを備考欄に記載しています。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>高知大学ウェブサイト(教務情報システム(シラバス))</p> <p>https://www-kulas.jimu.kochi-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/Syllabus/SyllabusAll.aspx</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>【全学共通】</p> <p>シラバスの「成績評価の方法」には、授業の到達目標に掲げた内容について、どのような方法（期末試験、レポート提出など）で何点の配分で評価するのかを記載しており、この基準により厳格かつ適正に単位を付与しています。</p> <p>授業では、授業科目ごとに到達目標を達成したかどうかによって成績評価することを基本としており、成績は100点から0点の評点により評価し、60点以上に単位を与えることとしています。また、その評点に対応する評語として、「秀」、「優」、「良」、「可」及び「不可」を用いますが、必要と認める場合は、「合格」又は「不合格」の評語で評価できることとしています。</p> <p>秀：到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績（90点～100点）</p> <p>優：到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績（80点～89点）</p> <p>良：到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績（70点～79点）</p> <p>可：標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績（60点～69点）</p> <p>不可：到達目標に示した知識・技能・考え方が理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績（59点以下）</p>	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
<p>【全学共通】</p> <p>本学では、学業成績を評価する方法の一つとして、以下のような計算式によるfunctional GPAという計算方法で対象科目のGPAを算出しています。ただし、科目の評点が59点以下の不可（不合格）のときの「科目の得点-55」は、一律ゼロとして計算し、GPAは、小数点以下第2位を四捨五入します。</p> $GPA = \left[\begin{array}{l} (\text{科目 A の得点} - 55) \div 10 \times \text{科目 A の単位数} \\ + (\text{科目 B の得点} - 55) \div 10 \times \text{科目 B の単位数} \\ + (\text{科目 C の得点} - 55) \div 10 \times \text{科目 C の単位数} \\ + \dots \\ + (\text{科目 Z の得点} - 55) \div 10 \times \text{科目 Z の単位数} \end{array} \right] \div (\text{A} \sim \text{Z の単位数の総和})$ <p>上記のような方法で算出されたGPAは、履修登録単位の上限の特例が適用される成績優秀者の判定の成績基準などで活用しています。</p> <p>学部の内部質保証委員会は、毎年度「成績評価分布一覧表」の分析を行い、必要があれば関係教員と調整を行うなどの取組を実施し、結果を全学会議に報告しています。</p> <p>また、学生からの成績評価に関する異議申立て制度を設けており、シラバスや授業等で周知された授業の到達基準や成績評価の方法から逸脱した評価があると思われる場合は、教務事務担当を通じて異議申立てを行うことが可能となっています。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	<p>高知大学ウェブサイト（教務情報システム（履修案内）） https://www-kulas.jimu.kochi-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/study_guide/study_guide.aspx</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【全学共通】</p> <p><卒業の要件・卒業判定の手順></p> <p>高知大学を卒業するためには、本学に通算4年(医学部医学科は6年)以上在学し、各学部履修規則等に定める必要科目の単位(上記1.及び2.の方法及び基準により認定された単位)を修得しなければなりません。</p> <p>卒業者の決定は、各学部の教授会の議を経て、学長が行います。</p> <p><卒業の認定に関する方針></p> <p>高知大学のディプロマ・ポリシーは、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」の領域で定義され、卒業までに身につけてほしい10+1の能力を定めています。</p> <p>本学は、学生がこれらの10の能力を学士課程全体で身につけ、さらにそれらの諸能力が学生自身の内部で統合され、世の中に働きかける汎用的な力(+1の能力)となるような教育をめざします。このような力を背景にもち、高度で実践的な専門能力を身につけることにより、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を育成し、学位を授与しています。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>高知大学ウェブサイト</p> <p>(高知大学の学部規則)</p> <p>https://www.kochi-u.ac.jp/outline/jouhou_koukai/gakunai_kisoku/gakubu_kisoku.html</p> <p>(高知大学の各学部履修規則)</p> <p>https://www.kochi-u.ac.jp/JA/kisoku_syuu/index.htm</p> <p>(教育に関するポリシー)</p> <p>https://www.kochi-u.ac.jp/kyoikujoho/06/kyoiku_policy.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	高知大学
設置者名	国立大学法人高知大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	高知大学ウェブサイト(独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(財務に関する情報)) http://www.kochi-u.ac.jp/outline/jouhou_koukai/jyouhou_teikyo/index.html ※財務諸表内
収支計算書又は損益計算書	高知大学ウェブサイト(独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(財務に関する情報)) http://www.kochi-u.ac.jp/outline/jouhou_koukai/jyouhou_teikyo/index.html ※財務諸表内
財産目録	—
事業報告書	高知大学ウェブサイト(独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(財務に関する情報)) http://www.kochi-u.ac.jp/outline/jouhou_koukai/jyouhou_teikyo/index.html
監事による監査報告(書)	高知大学ウェブサイト(独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(評価及び監査に関する情報)) http://www.kochi-u.ac.jp/outline/jouhou_koukai/jyouhou_teikyo/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 高知大学ウェブサイト(自己点検(自己点検・評価)) https://www.kochi-u.ac.jp/outline/tenken_hyouten.html
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：高知大学ウェブサイト (点検評価 (機関別認証評価))
https://www.kochi-u.ac.jp/outline/tenken_hyouten.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文社会科学部
教育研究上の目的 (公表方法：高知大学ウェブサイト (学部の教育研究上の目的) https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/kyoiku_mokuteki/gakubu_mokuteki.html)
(概要) 本学部は、人文社会科学各分野の専門的知識と、それと関連する諸分野に関する学際的教養をそなえて、グローバルかつローカルな課題の把握・解決のために貢献できる人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー) https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html)
(概要) 高知大学のディプロマ・ポリシーは、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」の領域で定義されています。 本学は、学生がこれらの領域の力を学士課程全体で身につけ、さらにそれらの諸能力が学生自身の内部で統合され、世の中に働きかける汎用的な力となるような教育をめざします。このような力を背景にもち、高度で実践的な専門能力を身につけることにより、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を育成し、学位を授与しています。 人文社会科学部ではコースごとに策定しています。
●人文社会科学部人文社会科学科 ■人文科学コース 【知識・理解】 ・哲学、心理学、歴史学、地理学、文学等に関する専門知識を身につけ、時代や地域に固有の文化や、時代や地域を越えた普遍的な人間の特性を比較検討しながら理解することができる。
[専門分野に関する知識] 1. 哲学、心理学、歴史学、地理学、文学等に関する知識を複数の分野にわたり修得している。 2. 哲学、心理学、歴史学、地理学、文学等のいずれか一つの分野の専門性を修得している。
[人類の文化・社会・自然に関する知識] 1. それぞれの時代・地域に固有の文化や、それを越えて普遍的な人間の特性について、その基本的な構造を理解している。

2. 哲学、心理学、歴史学、地理学、文学等の人文科学の成果を利用することができる。

【思考・判断】

・哲学、心理学、歴史学、地理学、文学等の人文科学の成果と課題を批判的に考察する思考力を身につけ、活用できる。

[論理的思考力]

1. それぞれの時代・地域に固有の文化や、それを越えた普遍的な人間の特性を、比較検討しながら理解している。
2. 哲学、心理学、歴史学、地理学、文学等の人文科学の成果を批判的に考察する思考力を修得し、活用することができる。

[課題探求力]

1. 課題の解決に取り組む際、学んだ知識・技能を活用することができる。
2. 哲学、心理学、歴史学、地理学、文学等の人文科学の課題を批判的に考察する思考力を修得している。

【技能・表現】

・文献資料・データの分析法、レポート・卒業論文の作成法、資料保存法等の専門知識に裏付けられた研究方法を駆使して、地域文化や地域社会に関する学修・研究の成果を発信することができる。

[語学・情報に関するリテラシー]

1. 文献資料・データの分析法、レポート・卒業論文の作成法、資料保存法等の専門知識に裏付けられた研究方法を駆使することができる。
2. 人文科学の研究で用いる基本的な手法を修得している。
3. 外国語のドキュメントを読み、その内容を理解する読解力を修得している。

[表現力]

1. 研究によって得た成果を示すための多様な技法・手段を修得している。
2. 学修・研究の成果を正確・客観的に示すことができる。

[コミュニケーション力]

1. 多様な考えをもつ人々の意見を聞き、意思疎通を図ることができる。
2. ディスカッションを通して、互いの学修・研究の内容を知り、高め合うことができる。

【関心・意欲・態度】

・地域文化や地域社会の過去・現在・将来のグローバルあるいはローカルな課題の解決に取り組む態度を身につけ、実践する。

[協働実践力]

1. 文化や社会において生じる問題など、人間に関わるさまざまな課題に対して、周囲と協力して解決に取り組むことができる。
2. 周囲と協力するにあたって、自らの役割を意識し、責任をもって発言・行動することができる。

[自律力]

1. 学問に対して真摯に取り組む姿勢を身につけている。
2. 研究のプロセスを客観的に認識し、計画・実行にあたって自らをマネジメントすることができる。

〔倫理観〕

1. 文献・資料の引用など、研究に際しての倫理的な基準を満たしながら研究する姿勢を身につけている。
2. 学修・研究の成果を社会に還元する必要性を理解している。

【統合・働きかけ】

1. 異なる価値観を持つ人々との議論や作業を通じて、自らの研究成果の質を高めていくことができる。

■国際社会コース

【知識・理解】

- ・多文化し複雑化するグローバル社会の諸相に対応する上で必要十分な、言語・文化・社会に関する専門的知識を身につけ、その知識を局所的なマイクロレベルから全体的なマクロレベルに至る連続体として理解し、活用できる。

〔専門分野に関する知識〕

1. グローバル社会の諸相に対応する上で必要十分な、言語・文化・社会に関する専門的知識を修得している。
2. 得られた知識を局所的なマイクロレベルから全体的なマクロレベルに至る連続体として理解し、活用できる。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 人文・社会・自然の各分野にわたる幅広い教養を修得している。
2. 幅広い教養を専門分野の知識と結びつけることができる。

【思考・判断】

- ・多面的価値に基づく複合体としての文化・社会における言語・文化・社会への深い洞察力と人文社会科学の領域横断的・複眼的な思考力を涵養し、グローバル社会における諸問題を批判的に考察し、主体的に判断する力を身につけ、活用できる。

〔論理的思考力〕

1. 多面的価値に基づく複合体としての文化・社会における言語・文化・社会への深い洞察力を修得している。
2. 人文社会科学の領域横断的・複眼的な思考力を修得し、活用することができる。

〔課題探求力〕

1. グローバル社会における諸問題を批判的に考察することができる。
2. グローバル社会における諸問題について主体的に判断する力を修得し、それを活用することができる。

【技能・表現】

- ・外国語の運用能力を身につけ、異文化および自文化への理解を深め、人文社会科学の領域横断的な思考を通じて獲得した成果や意義を、口頭・文章あるいは多様なメディアによって表現する能力を身につけ、活用できる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 外国語の運用能力を修得している。
2. 異文化および自文化への深い理解力を修得している。

〔表現力〕

1. 獲得した成果や意義を、口頭・文章あるいは多様なメディアによって表現する能力を

修得し、それを活用することができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 日本語あるいは外国語で他者と意思疎通を図ることができる。

【関心・意欲・態度】

- ・グローバル社会における諸問題に関心を持ち、局所的なマイクロレベルから全体的なマクロレベルに至る多様な視座から比較・検討することで課題解決を実践する態度を身につけ、活用できる。

〔協働実践力〕

1. 他者との協働によって様々な問題について多様な視座から比較・検討し課題解決の方法を探ることができる。

〔自律力〕

1. グローバル社会における諸問題について主体的に関心をもつことができる。
2. 学習のプロセスを意識し、計画・実行にあたってみずからをマネジメントすることができる。

〔倫理観〕

1. 文献・資料の引用など研究に際しての倫理的ガイドラインに即して研究する姿勢を身につけている。

【統合・働きかけ】

1. 特定の課題について「問い」をたて、資料を批判的に検討することによってその論理的な「答え」を見出すことができる。
2. 特定の問題に関する「問い」と「答え」を「言葉」によって論理的に表現することができる。

■社会科学コース

【知識・理解】

- ・経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学を幅広く学び、かつ特定分野を段階的に集中して学び、当該分野の専門性を身につける。社会制度の基本的な構造を多角的に検討し、理解することができる。

〔専門分野に関する知識〕

1. 経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学に関する知識を複数の分野にわたり修得している。
2. 経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学のいずれか1つの分野の専門性を修得している。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 現実に起こっている社会問題を把握することができる。
2. 社会制度の基本的な構造を理解している。

【思考・判断】

- ・現実に起こっている様々な社会問題の基本的な構造を理解し、必要な知識・技能を動員して課題解決に取り組むことができる。

〔論理的思考力〕

1. 社会問題の基本的な構造を理解している。
2. 社会で生じている問題と社会制度の関係を把握することができる。

〔課題探求力〕

1. 現実に行っている社会問題を観察し、課題設定ができる。
2. 学んだ知識・技能を動員して課題解決に取り組むことができる。

【技能・表現】

- ・情報解析のツール、コミュニケーション能力に加えて、社会科学で用いる研究手法を身につけ、研究を通じて得た成果を社会に広く示すことができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 現代社会における基本的な情報解析の手法を利用できる。
2. 社会科学で用いる研究手法を修得している。
3. 外国語のドキュメントを読み、その内容を理解する読解力を修得している。

〔表現力〕

1. 研究を通じて得た成果を示すための多様な技法・手段を修得している。

〔コミュニケーション力〕

1. 多様な考えをもつ人々の意見を聞き、意思疎通を図ることができる。

【関心・意欲・態度】

- ・学問に対して真摯に取り組み、体系的に理解して、得られた知識を個人のためのみに利用するのではなく、周囲と協力し、社会全般に還元する態度を身につけ、活用できる。

〔協働実践力〕

1. 社会における課題に対して、周囲と協力して解決に取り組むことができる。

〔自律力〕

1. 研究のプロセスを意識し、計画・実行にあたって自らをマネジメントすることができる。

〔倫理観〕

1. 得た知識を個人のためのみ利用するのではなく社会全般に還元する態度を身につけている。
2. 文献・資料の引用など、研究に際しての倫理的ガイドラインに即して研究する姿勢を身につけている。

【統合・働きかけ】

1. 異なる価値観を持つ人々との議論や作業を通じて、自らの研究成果の質を高めていくことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト(教育に関するポリシー)

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html)

(概要)

●人文社会科学部人文社会科学科

■人文科学コース

【教育内容】

1. 人文・社会・自然の各分野にわたる幅広い教養を身につけるために、共通教育科目を配置しています。
2. 共通教育で身につけた幅広い教養を専門分野の知識と結びつけ、人文社会科学の領域横断的・複眼的な思考力を身につけるために、プラットフォーム科目を配置しています。
3. 哲学、心理学、歴史学、地理学、文学等に関する専門知識をしっかりと身につけるために、専門科目を配置しています。
4. 時代や地域に固有の文化や、時代や地域を越えた普遍的な人間の特性を比較検討しながら理解することができる力を獲得するため、4年間を通して少人数の演習科目（ゼミナール）を配置しています。
5. 4年間の学修の成果として、卒業論文の作成を必修とします。

【教育方法】

1. 人文科学の成果と課題を批判的に考察する思考力を身につけ、活用できるようになるために、哲学・思想、心理学、歴史・地理学、日本語・日本文学、英米文学の5プログラムを配置し、それらを有機的に学べるように学修ポートフォリオを活用するなどして個別に指導します。
2. 人文科学の研究方法を駆使して、地域文化や地域社会に関する学修・研究の成果を発信することができる力を身につけるために、グループワーク、実習、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を展開し、自律的な学修を促します。
3. 卒業論文作成の過程では、文献資料や聞き取り資料、データの分析法など人文科学の研究方法を身につけ、さらにその学修・研究の成果を発信することができるようにします。

【教育評価】

1. 4年間の学修の成果である卒業論文には、複数教員による審査を取り入れ、卒論報告会で研究成果を広く公表します。
2. 授業アンケート、単位修得状況等のデータをもとに、教育内容・方法等の評価を行います。

■国際社会コース

【教育内容】

1. 人文・社会・自然の各分野にわたる幅広い教養を身につけ、基礎的な外国語運用能力を会得するために、共通教育科目を配置しています。
2. 共通教育で身につけた幅広い教養を専門分野の知識と結びつけ、人文社会科学の領域横断的・複眼的な思考力を身につけるために、プラットフォーム科目を配置しています。
3. 外国語の運用能力を身につけ、それに基づきコミュニケーション能力と異文化および自文化への深い理解力を獲得するために、共通教育とプラットフォーム科目に外国語科目を配置しています。
4. 言語・文化・社会への深い洞察力を身につけ、グローバル社会における諸問題を批判的に考察することができる力を獲得するために、コースに専門科目を配置し、それらの専門科目を学修目的に沿って教育プログラムとして編成しています。
5. グローバル社会における諸問題について主体的に判断する力を身につけ、それを活用することができるように、ゼミナールを三年間（二年次から四年次）配置し、必修とします。
6. 4年間の学修の成果として、卒業論文の作成を必修とします。

【教育方法】

1. ゼミナールにおいては、学生一人ひとりの成長を促すため、輪読、ディスカッション、プレゼンテーション、個別指導等の多様な教育方法を取り入れます。
2. 少人数の演習科目であるゼミナールでは、個々の学生により良い支援を行っていくための方法として、学修ポートフォリオやルーブリックなどを取り入れます。
3. 多様な科目群において、ペアやグループワーク、グループ・ディスカッション、実習、アクティブ・ラーニング等を取り入れます。

【教育評価】

1. ゼミナールにおいては、学修ポートフォリオやルーブリックなどを用いて、学生一人ひとりの形成的な評価を行います。
2. 3年次のゼミナールにおいては学生の能力の中間的な到達度を測るため、4年次のゼミナールでは能力の到達度を評価するために、パフォーマンス評価を行います。
3. 学修の最終的な成果である卒業論文は、複数教員による審査を行い、卒論報告会等で成果を広く公表します。
4. 授業アンケートや単位修得状況等のデータをもとに、教育内容・方法等の評価を行います。

■社会科学コース

【教育内容】

1. 経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学の専門性を複合的に高めるために、共通教育、専門科目を配置しています。
2. 経済学、経営学・会計学、法学・政治学のいずれか1つ以上の専門性を高めるために、専門科目を群（プログラム）にわけて配置しています。
3. 社会制度や社会問題の課題の解決に取り組むために、4年間を通して各学期に少人数の演習科目（ゼミナール）を配置しています。また、その担当者がアドバイザーとして学生の学修の助言を行います。
4. 4年間の学修の成果として、卒業論文の作成を必修とします。

【教育方法】

1. 少人数の演習科目（ゼミナール）では、学修ポートフォリオやルーブリックなどを用いて学生ひとり一人の形成的な評価のため到達度等についてのフィードバックを行います。
2. 専門性を複合的に高めるために、多分野の教員によるチームティーチングを取り入れます。
3. 社会制度や社会問題の課題に学生が自律的に取り組むことができるようアクティブ・ラーニング等、学生が自律的に学修できる教育方法を取り入れます。
4. 3年、4年次の少人数の演習科目（ゼミナール）における研究成果である卒業論文に複数教員による審査を取り入れ、卒論報告会で研究成果を広く公表します。

【教育評価】

1. 卒業論文の作成過程、審査、報告における評価、その他科目の単位修得状況等から教育内容・方法の評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：高知大学ウェブサイト（教育に関するポリシー）

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html)

(概要)

●人文社会科学部人文社会科学科

人文社会科学部人文社会科学科は、「現代社会のグローバルな課題やローカルな課題の解決に取り組む人材」を養成します。

本学部では「人文科学・社会科学の中の特定の学問分野のみならず、課題の解決に関連のある人文科学・社会科学の他の学問分野を見つけたいという旺盛な好奇心を持つ者」を求めます。

学部・学科共通のアドミッション・ポリシーに加えて、コース個々のアドミッション・ポリシーを以下に示します。

■人文科学コース

人文科学コースは、「哲学・心理学・歴史学・地理学・文学等について学び、グローバルな視点とローカルな視点の双方から過去や現在の地域文化の特性や、人間そのものに対する考え方について批判的な精神をもって理解し、社会・文化の維持・発展に貢献できる人間」を養成します。

本コースでは、このような人材養成の基盤となる、以下の資質を有する者を求めます。

知識・技能

1. 国語・外国語・倫理・現代社会・歴史・地理等の科目を高等学校等で履修し、それらの基礎的事項を理解している。
2. 主として言語による、正確で論理的な表現技術を身につけている。

思考力・判断力・表現力

1. 物事を論理的にとらえ、判断し、的確に表現することができる。

主体性・多様性・協働性（※主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

1. 地域の文化や地域社会の課題、人類全体に共通の普遍的な問題について、主体的に考えることができる。

関心・意欲

1. 地域の文化や地域社会の課題、人類全体に共通の普遍的な問題について関心を持ち、取り組む意欲がある。

■国際社会コース

国際社会コースは、「多様な視点を持って異文化・自文化を理解し、グローバル化に対する批判的考察ができる人間、また言語・文化・社会に関する専門的知識と外国語の運用能力を生かして、グローバル社会の課題解決に貢献できる人間」を養成します。

本コースでは、このような人材養成の基盤となる、以下の資質を有する者を求めます。

知識・技能

1. 多面的価値を学び、理解するのに必要な基礎的な素養、すなわち高等学校卒業程度の教科学習（「外国語」を中心とした教科）に関する知識があり理解している。
2. 十分な日本語力と高等学校卒業程度の外国語によるコミュニケーションの技能を有する。

思考力・判断力・表現力

1. 言語・文化・社会の多様性を理解しつつ、多様な人々と協働する能力を身につけている。
2. 目的や場面に応じて適切な言語とメディアを選択し、学習の成果などを発信する基礎的な力を有する。

主体性・多様性・協働性（※主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

1. 世界の人々と積極的に関わり、地域社会に貢献する素養がある。

関心・意欲

1. 世界における多様な言語・文化・社会の問題に強い関心を持っている。
2. 世界の人々と積極的に関わり、地域社会に貢献する意欲がある。

■社会科学コース

社会科学コースは、「経済学・経営学・会計学・法学・政治学等について複合的に学び、社会制度に関する幅広い教養と専門的能力を身につけ、社会的問題に実践的に取り組む人間」を養成します。

本コースでは、このような人材養成の基盤となる、以下の資質を有する者を求めます。

知識・技能

1. 高等学校等で履修した科目について基礎的事項を理解している。

思考力・判断力・表現力

1. 社会に存在する諸問題の解決に、専門・学際両面から取り組むための論理的思考力と理性的判断力を有する。
2. 社会や自己を客観的にとらえることができ、自己の考えを他者に伝わるように表現することができる。

主体性・多様性・協働性（※主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

1. 社会科系の科目を積極的に学び、読書等を通じ、社会制度、社会問題に関する知識や理解力を高める習慣を獲得している。

関心・意欲

1. 経済・経営・会計・法律・政治等に関連する社会的なことがらについて、主体的に課題を発見し、多面的に課題を検討して、課題の解決に取り組む意思がある。

学部等名 教育学部

教育研究上の目的

（公表方法：高知大学ウェブサイト（学部の教育研究上の目的）

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/kyoiku_mokuteki/gakubu_mokuteki.html）

（概要）

教育学部は、教育基本法の趣旨に基づき、地域に密着しつつ、高度で専門的、個性的な教育研究を行い、教育に対する使命感や豊かな人間性、専門性に裏付けられた実践的指導力を育み、学校教育を推進する上で必要な高い資質能力を有する教員の養成を行うことを目的とする。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：高知大学ウェブサイト（教育に関するポリシー）

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html）

(概要)

高知大学のディプロマ・ポリシーは、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」の領域で定義されています。

本学は、学生がこれらの領域の力を学士課程全体で身につけ、さらにそれらの諸能力が学生自身の内部で統合され、世の中に働きかける汎用的な力となるような教育をめざします。このような力を背景にもち、高度で実践的な専門能力を身につけることにより、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を育成し、学位を授与しています。

●教育学部のディプロマ・ポリシー

【知識・理解】

・幅広い教養と教育に関する専門的知識、とりわけ学校教育に関して総合的な理解を有している。

【思考・判断】

・教育に対して深く探究し、学校教育をめぐる諸課題の解決に向け適切な方策を考えることができる。

【技能・表現】

・確かな教育実践に必要とされる高い技能と豊かなコミュニケーション能力を身につけている。

【関心・意欲・態度】

・教育という営みや教師という仕事に深い関心を持ち、主体的に探究し続けることができる。

・教師として必要な使命感や責任感を持ち、自ら成長しようとする姿勢を身につけている。

【統合・働きかけ】

・これまで修得した知識と技能を教育活動のなかで活かすことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト(教育に関するポリシー))

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoikujo/06/kyoiku_policy.html)

(概要)

●教育学部

教育学部のカリキュラムは、実践的で指導力ある教員を養成することを目標として、構成する科目を、学修内容と学修する学年の2つの軸で位置づけています。一つは、教員養成に関わって必要とされる学修内容のまとまりから構成される6つの系です。もう一つは、6つの系を学年に応じて横に区切った段階であり、各学年で学ぶ内容の学修順序を示すことで、学修内容の系統性を示します。これら2つの軸による位置づけで科目群が構成されています。

【教育内容】

1. 社会人として必要とされる能力や教養を身につけるために、共通教育科目として、課題探求実践セミナーなどの初年次科目や教養に関する科目を配置します。
2. 教育の現代的課題や意義、教育に関する基礎理論を身につけるために、教育原理、子どもの発達、教育の社会的・経営的側面に関する科目を配置しています。
3. 各教科の学修内容や学修方法について、理解し、授業する力を身につけるため、各教科指導法、教育内容に関する科目を配置しています。
4. 乳幼児の発達段階、発達障害等の障害特性に応じた指導力を身につけるため、幼児や特別支援教育に関する科目を配置しています。
5. 実践的指導力を身につけるために、「教育実習」、「応用実習」などの体験型授業を学年段階で配置しています。
6. 教育に関する専門的な知識を広く深く身につけるために、学修の集大成として「教職実践演習」を配置しています。

【教育方法】

4年間を通して実践的指導力のある教員を養成するための学年段階に応じた教育方法を展開します。

1. 1年次には、教職への入門、子ども理解のための講義やグループワークなどによるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実施します。
2. 2年次には、教師の役割についての基礎的知識と学校教育・学校地域連携の理解などを深めるために各教科指導法などを実施します。
3. 3年次には、学習指導・教科内容についての理解の深化と実践的な力量の基礎を身につけるため「教育実習」、「教材開発演習」などを実施します。
4. 4年次には、教師としての実践的指導力の統合・深化を図るため、「教職実践演習」などを実施します。
5. 附属学校園および社会福祉施設において実習を行い、大学で学んできたさまざまな理論や技術を適用・検証し、実習後の研究上の課題を発見すると同時に、自己の教職適性を振り返る機会とします。
6. 遠隔授業システムを活用して、附属学校園との連携を強化した授業設計を行います。

【教育評価】

1. 学生自身が学年ごとに学びを振り返り、自己の課題を設定する「履修カルテ」を作成し、学生自身で到達度や形成的評価活動を行います。さらに、教員がフィードバックを行い、年度ごとの学びを評価します。
2. 4年間の学修成果は、「教育実習」及び実習に関連する科目によって、その到達目標の到達度での総括的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト(教育に関するポリシー)

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoikujoho/06/kyoiku_policy.html)

(概要)

教育学部は、「幅広い教養と教育(保育)とりわけ学校教育に関する総合的な理解を持ち、教育を深く探求して学校教育をめぐる諸課題の解決に向け適切な方策を考えることができ、確かな教育実践に必要な高い技能と豊かなコミュニケーション能力を身につけ、教育(保育)という営みや教師(保育士)という仕事に深い関心を持って主体的に探求し続けることができる人材」を養成します。本学部では、このような人材養成の基盤となる、以下の能力・態度を有する者を求めます。

【知識・技能】

1. 教育実践に必要とされる幅広い教養や教育(保育)に関する専門的総合的な知識を理解するために必要となる高等学校までの各教科の基礎知識・技能を有する。

【思考力・判断力・表現力】

1. 学習した内容を理解する能力を有する。
2. 論理的に思考する能力を有する。
3. 学習した内容を状況や課題に応じて活用したり応用したりする能力を有する。
4. 学習した内容や自分の意見を他者に対して適切に表現する能力を有する。

【主体性・多様性・協働性】(※主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

1. 主体的に課題を探究する態度を有する。
2. 課題について多様な考え方を有する態度を有する。
3. さまざまな人々と協働して課題を解決する態度を有する。

【関心・意欲】

1. 教育と教師(保育と保育士)の仕事について強い関心を持っている。
2. 教職への意欲を持っている。

学部等名 理工学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：高知大学ウェブサイト (学部の教育研究上の目的) https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku.joho/kyoiku_mokuteki/gakubu_mokuteki.html)</p>
<p>(概要) 総合的な教養及び理学や理工学に関する専門的知識と理工学的な視点及び、グローバル化する社会の中で、自らが課題を発見しそれを解決していける能力を身に付けさせ、社会における様々な分野で活躍できる人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー) https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku.joho/06/kyoiku_policy.html)</p>
<p>(概要) 高知大学のディプロマ・ポリシーは、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」の領域で定義されています。 本学は、学生がこれらの領域の力を学士課程全体で身につけ、さらにそれらの諸能力が学生自身の内部で統合され、世の中に働きかける汎用的な力となるような教育をめざします。このような力を背景にもち、高度で実践的な専門能力を身につけることにより、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を育成し、学位を授与しています。 理工学部では学科ごとに策定しています。</p> <p>●理工学部</p> <p>■数学物理学科</p> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学と物理学のそれぞれの分野における専門知識を修得するとともに汎用的技術を身につけ、的確に活用することができる。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的・論理的な判断ができ、自然法則に基づき、それぞれの分野における専門知識を適切に活用し、数理的に課題や問題を的確に表現できる。 <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学と物理学のそれぞれの分野に固有の研究手法の基礎を身につけている。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学と物理学のそれぞれの分野に対して常に関心を持ち、的確に課題や問題を表現し、必要な文献等を収集するなどしてそれらを解明しようとする意欲を有している。 ・自然法則を理解し、過去にあまり経験のない状況に直面しても、数学的・論理的に柔軟に対応していこうという態度を有し、修得した知識や技術を実際の場面に適切に応用する態度を有している。 <p>【統合・働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが属するコミュニティにおいて、数学又は物理学に関する知見に基づき、自らの課題を設定することができる。 ・自らが属するコミュニティにおいて、数学又は物理学に関する知見に基づいて、考察対象の定式化、分析を行い、より良い成果を導くことができる。 <p>■情報科学科</p> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算システム科学、ソフトウェア科学、数理情報学の各分野における専門知識を体系的に修得し、情報科学分野の最新的话题を的確に理解できる。 <p>【思考・判断】</p>

・数理的・論理的な判断ができ、情報倫理に基づき、ハードウェアとソフトウェアに関する専門知識を適切に活用できる。

【技能・表現】

・課題や問題を情報科学的視点で表現し解明するためのアルゴリズム表現手法や情報処理技術を身につけ活用することができる。

【関心・意欲・態度】

・情報科学の諸分野に対して常に関心を持ち、課題や問題を情報科学的視点で表現し、必要な文献等を収集するなどしてそれらを解明しようとする意欲を有している。

・情報倫理に基づき、高度情報化社会の急速な変化に直面しても、修得した知識や技術を生かして数理的・論理的に柔軟に対応していこうという態度を有している。

【統合・働きかけ】

・自らが属するコミュニティにおいて、情報科学の知見に基づき、周囲と議論などをしながら、自らの課題を設定することができる。

・自らが属するコミュニティにおいて、情報科学の知見に基づいて、考察対象のモデル化、分析を行い、よりよい研究成果を導くことができる。

■生物科学科

【知識・理解】

・分類学、生態学、古生物学、比較生化学、細胞生物学、生理学、分子進化学の生物学諸分野について専門的な知識と野外調査・室内実験の技術を修得し、生物及び生物圏の在り方を共時的・通時的な視点から理解している。

【思考・判断】

・修得した知識と技術に基づいて、生物学における最新の成果の本質を理解し、生物に関わる諸問題を適切な課題設定により解決する能力を有している。また、得られたデータを問題解決のために正しく活用することができる。

【技能・表現】

・日本語及び英語による表現力、理解力、コミュニケーション能力を修得しており、異分野を含む様々な学生・研究者と生物学に関する意見交換ができる素養を身につけている。生物学分野の調査・実験において、課題抽出、計画立案、データ収集と解釈、結果の考察、解決策の提案という一連の能力を修得し活用することができる。

【関心・意欲・態度】

・様々な生物学の分野に関する知識を積極的に収集し、それらを結びつけることにより、生物の在り方を総合的に理解しようとする意欲を有している。

・権威、主観、先入観を廃し、観察結果を客観的に解釈し、論理的に考察する科学の方法を尊重する態度を有している。

【統合・働きかけ】

・自らが属するコミュニティにおいて、修得した生物科学に関する知見に基づき、周囲と議論しながら自らの課題を設定することができる。

・自らが属するコミュニティにおいて、生物科学に関する知見に基づき、考察対象の定式化、分析を行い、より良い研究成果を導くことができる。

■化学生命理工学科

【知識・理解】

・化学や生命科学の基礎力を身につけており、それらを統合して各専門分野の最新情報を理解し活用することができる。

【思考・判断】

・実験から得た事実を論理的に考察し、現象の本質を把握することができる。

【技能・表現】

・実験技術とデータ解析技術を身につけ、様々な課題を自ら解決する汎用性を持っている。専門知識及び研究成果を、適切な言葉で筋道立てて表現できる。

【関心・意欲・態度】

- ・化学や生命科学に加え、学際分野についても高い関心と疑問を持ち、自ら課題を探究し、解決する意欲を有している。
- ・常に学問的興味・関心を失うことなく、修得した知識と技能を社会へ還元し得る態度を有している

【統合・働きかけ】

- ・自らが所属するコミュニティーにおいて、修得した専門分野の知見に基づいて、周囲と議論しながら自らの課題を設定することができる。
- ・研究プロセスにおいて、周囲と議論を重ねることによって、より良い解決策を見出し、質の向上を図ることができる。

■地球環境防災学科

【知識・理解】

- ・数学、自然科学、情報処理及び語学に関する基礎知識及び地球環境、自然現象の発生機構、防災に関連する分野の専門知識とスキルを修得し活用することができる。また、地球の成り立ち、国土保全、持続発展可能な社会の概念を理解している。

【思考・判断】

- ・データに基づいて客観的・論理的な考察をし、適切な結論を導くことができる。環境変化や自然災害リスクに対処できる問題解決能力を有している。過去から現在までの動向を分析し、将来を模索・創造できる広い視野と柔軟な思考力を身につけている。

【技能・表現】

- ・問題の設定や計画の立案を自発的に行い、それらを実行できる技能を修得している。調査・研究結果を論理的にまとめ、自らの見解を正確かつ明解に表現できる。プレゼンテーションとディベートを通じた問題解決能力を身につけている。

【関心・意欲・態度】

- ・地球上の自然現象や環境・資源と、それらが人間生活に及ぼす影響に関心を持ち、修得した知識と技能を、社会的問題の解決のために活用する意欲を有している。また、継続的な探求により自主的に課題を解決しようとする態度を有している。

【統合・働きかけ】

- ・修得した専門分野の知見に基づいて、周囲と議論しながら自らの課題を設定することができる。
- ・社会的視点も考慮に入れて課題解決に取り組み、よりよい研究成果を導くことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト(教育に関するポリシー)

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html)

(概要)

●理工学部

■数学物理学科

数学および物理学は互いに強い影響を受けながらともに発展してきた学問分野であることを踏まえ、数学および物理学をカリキュラムの中心に据えます。数学・物理学、ひいては自然科学全体にまたがる広い視座を持ちつつ、地域社会・国際社会の変化に柔軟に対応できる力を身につけるために、論理的思考力を涵養し、理学の基礎を身につけながら、「数学コース」「物理科学コース」の2つのコースのもとで数学・物理分野の専門教育を実施します。

【教育内容】

数学コースでは、解析学分野、幾何学分野、代数学分野、確率・統計学分野に関する基礎的概念を理解し、さらに各分野におけるより高度な専門知識に関する学びを通して、論理的思考力や問題解決能力を涵養し、身につけた力を社会の様々な分野で十分に発揮できる人材を育成するためのカリキュラムを編成しています。

物理科学コースでは、力学・電磁気学・熱統計力学・量子力学の基礎的理解を素地として原子核（理論）物理学、宇宙線物理学、物性物理学、物性化学の諸分野における先端知識とともに学修することで、物質がその階層に応じて示す基本法則、現象、性質などの自然の本質を理解しつつ実生活に応用できる人材を育成するためのカリキュラムを編成しています。

数学・物理学の基礎的な知識や研究手法を修得するための「学科基礎科目」、コース毎の高度な専門科目である「学科専攻科目」を配置しています。またそれら学修への基盤を形成しつつ豊かな人間性を涵養するために、幅広く深い教養および社会への視座を養う「共通教育科目」、理工学を学ぶ上での基礎知識を身につける「学部共通科目」もあわせて配置しています。

「共通教育科目」では、社会人として必要になる能力や幅広い教養を身につけるために初年次科目や教養に関する科目を配置します。

数学コース・物理科学コースとも、「学科基礎科目」のうち、数学系科目、物理系科目、概論系科目の3分野それぞれの科目を配置して、数学・物理にまたがる広い視野での基礎的な理学教育を実施します。

「学科専攻科目」は、数学・物理学それぞれの分野における発展的な専門的知識に関する科目です。数学コースは「数学コース科目群」に区分された科目群から、物理科学コースは「物理科学コース科目群」に区分された科目群を中心に専門教育を行います。その上で数学・物理科学コースともに最終年次で「卒業研究」8単位を必修とし、学士教育を完成させます。

「学部共通科目」では理工学の基礎となる数学科目、科学者としての倫理、防災に関する知識、リスクマネジメントなどの知識を修得できるよう科目を配置しています。また、「共通教育科目」と合わせ英語科目を年次ごとに体系的に配置することで、グローバル化に対応できる人材を育成します。

また、数学、理科の教員免許状取得に必要な科目を配置し、免許資格取得を可能にします。

【教育方法】

1. 数学、物理科学の各分野の基本的な知識を伝える授業は、講義形式を中心に構成されています。さらに、学生の主体的な学び(アクティブ・ラーニング)を促進するため、講義科目を補完する演習科目を設け、個人ないしは少人数のグループでの演習を行い、その過程での確かな判断力、計算技能を養成すると共に、専門知識の本質の理解を深め、論理的思考力や表現力を養います。
2. 物理科学コースを選択した学生を対象に、物理科学の発展には実験が鍵となることを踏まえ、実験技術を修得しその原理を深く知るために必要な実験科目を配置しています。これらの科目は、レポート作成を中心とした相応の時間外学習を含めた形で授業設計を行います。物理科学コースでは、「基礎物理学実験」(1年次での履修を想定)、「物理科学実験 I」(同2年次)、「物理科学実験 II」(同3年次)を必修とし、体系的に学修を発展させます。
3. 必修科目である「卒業研究」では、専任教員の直接的指導のもとに、学修を積み重ねてきた知識、技能に基づき研究を進めることで自立心・課題探求力・共働実践力を養い、さらに卒業論文を主体的にまとめ上げるまでの過程を通して統合・働きかけに関する能力を養います。

【教育評価】

1. 共通教育科目や専門科目のGPAに基づいて、学修成果の総合的な評価を行います。

2. アドバイザー教員が各学生に対する面談を行い、学修状況の確認、指導を行います。
3. 学生に対するアンケート等により、学修内容の総合的評価を行います。
4. 卒業研究発表会における発表と提出した卒業論文による審査から、在学中の学修成果を総合評価します。
5. 上記の評価に基づいてカリキュラムや指導方法等の点検を行い、必要に応じてカリキュラムや指導方法等の改善を行います。

■情報科学科

情報科学科では、情報科学、情報工学の「計算システム科学」「ソフトウェア科学」「数理情報学」分野に関する知識および情報処理能力を涵養し、その学修を通して論理的思考力を身につけ、さらには高度情報化社会で活躍できる人材を育成するためのカリキュラムを編成しています。

【教育内容】

情報科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、計算システム科学、ソフトウェア科学、数理情報学の各分野における専門知識を体系的に修得し、数理的・論理的な判断ができ、情報倫理に基づいてハードウェアとソフトウェアに関する専門知識を適切に活用できる能力を涵養するため、以下の教育課程を編成しています。

〔共通教育科目〕

社会人として必要になる能力や幅広い教養を身に付けるために初年次科目や教養に関する科目を配置します。

〔学科基礎科目〕

本科目群は、以下の科目を必修科目とすることにより、ディプロマ・ポリシーに掲げる情報科学の基礎的な知識、プログラミングや情報処理に係る手法を修得し、学科専攻科目における高度な専門科目へとつなげることを目的としています。また、選択科目として、理学の他分野の概論科目や情報科学の基礎となる数学・物理学の科目を配置することで、より広範な知識の修得が可能となります。

「物理学概論」、「情報科学概論」、「理工学情報処理演習」、
「プログラミング演習Ⅰ」、「プログラミング演習Ⅱ」

〔学科専攻科目〕

本科目群に配置される科目を「計算システム科学分野科目」、「ソフトウェア科学分野科目」、「数理情報学分野科目」に区分し、各分野の基幹となる科目を必修科目とします。「計算システム科学分野科目」では、「計算機システム学」を必修科目とし、情報処理の基本数学、論理回路の設計、仮想計算機のアセンブリ言語によるプログラミングを学修することにより、ハードウェアとソフトウェア両面の基礎的知識を修得します。「ソフトウェア科学分野科目」では、「アルゴリズムとデータ構造」を必修科目とし、プログラム設計の基本となるアルゴリズム・データ構造に関する専門的知識を修得します。「数理情報学分野科目」では、「数値解析」を必修科目とし、計算機が行う数値計算の仕組みに関する学修を行い、より早くより精度の高い計算結果に繋がる計算式を立案できる能力を育成します。

このような情報科学に関する知識・技法の修得を基礎として、高学年次にはより発展的な配置とすることで、卒業論文へと繋がる体系的な学びを提供します。

【教育方法】

1. 専門科目では、計算システム科学分野、ソフトウェア科学分野、数理情報学分野の専門的な科目を自由に選択できるように配置することで学生の得意分野を伸ばします。
2. 3年次第2学期のゼミナール授業科目にて研究室への仮配属を行い、4年次から始まる卒業研究へスムーズにつないでいきます。

3. 卒業研究では少人数のゼミナールでの指導を行います。また、卒業研究発表会での研究成果の発表と、質疑応答で学修の深化をはかります。
4. 教育用電子計算機システムを導入し、計算機実習室のコンピュータを学生が自由に使えるようにすることで、学生のプログラミング学習等における時間外学習を促します。

【教育評価】

1. GPA、「ディプロマ・ポリシーの到達度」等により学生の到達度を把握します。
2. 学士力確認試験により形成的評価を行うことで学生の到達度を把握します。
3. 学生の到達度をもってカリキュラムの評価とします。
4. 上記の評価に基づいてカリキュラムや指導方法等の点検を行い、必要に応じてカリキュラムや指導方法等の改善を行います。

■生物科学科

生物科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、生物科学関連分野の成果を共時・通時的視点からも理解できる能力、及び生物科学に関わる諸問題を解決する能力を涵養するため、以下の教育課程を編成しています。

【教育内容】

〔共通教育科目〕

社会人として必要になる能力や幅広い教養を身につけるために初年次科目や教養に関する科目を配置しています。

〔学部共通科目群〕

本学部では、イノベーションの創出に関わる、あるいはそれに強い関心を持ち、理工学の視点から防災も含めたリスク管理に関する基礎知識を身につけた人材を育成するために、理工学の基礎となる「数学概論」に加え、学部共通科目として、「理工系数学」、「科学者・技術者倫理」、「防災理工学概論」、「リスクマネジメント」、「理工学研究プロポーザル」の必修科目を配置しています。

さらに、グローバル化に対応できる人材を育成するために、「英会話」（共通教育：1年次）、ネイティブスピーカーによる「科学英語」（2年次）、「理工学英語ゼミナールⅠ」（3年次）、「理工学英語ゼミナールⅡ」（4年次）を必修とします。

〔学科基礎科目群〕

ディプロマ・ポリシーに掲げる分類学、生態学、古生物学、比較生化学、細胞生物学、生理学、分子進化学の生物科学の諸分野について基礎的な知識を修得するために、1～2年次に履修することのできる「理学情報処理演習」、「植物分類学」、「動物分類学」、「生態学」、「古生物学」、「比較生化学」、「動物生理学」、「細胞生物学」の8科目を必修とします。

また、生物科学分野に係る基礎的な知識を修得するために、「生物学概論」、「地球科学概論」を選択必修科目、基礎実験科目を選択科目として配置しています。

〔学科専攻科目群〕

専門分野の調査や実験に関する基本的な技術と知識を修得し、卒業研究における本格的な研究への取り組みに備えるとともに、平行して履修する周辺の専門分野の実験を通じて、自分の専攻以外のものを含む幅広い視点に基づく研究の立案・位置付け・考察を可能とする素養を身につけるために、学科専攻科目群を配置しています。

学科基礎科目で修得した生物科学の基礎的な知識・実験技法などを基に、2～3年次に履修できる高度な実験科目を10科目（「植物地理学実習」、「動物生理学実験」、「古生物学実習」、「臨海実習」、「比較生化学実験」、「植物分類学実験」、「植物生態学実験」、「海洋生物学実験」、「細胞生物学実験」、「陸水生物学実習」）配置し、うち4科目8単位以上を選択必修とします。

【教育方法】

学生が主体的・自律的に学ぶ力を高めるために、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施するとともに、時間外学習を想定した授業設計を行います。

1. 野外実習や実験科目などでは、多様な生物科学の世界にふれ、講義で得た知識を応用・発展させ、生物科学研究を行うための実践的な能力を身につけるとともに、コミュニケーション力や協働実践力を養うように進めます。
2. 英語科目は、4年間を通して配置し、体系的に学習することで、生物科学の研究を英語で理解し、その内容を発表する能力を身につけます。
3. 学修ポートフォリオやそれに基づいた学生面談を行い、学生の到達度を把握しつつ指導する体制をとります。

【教育評価】

1. GPA、「ディプロマ・ポリシーの到達度」、「学修成果の達成度」等の指標に基づいて、カリキュラムの評価を行います。
2. 上記の指標に加えて、授業アンケートおよび学生への面談等による形成的評価等を行います。
3. 上記の評価に基づいてカリキュラムや指導方法等の点検を行い、必要に応じてカリキュラムや指導方法等の改善を行います。

■化学生命理工学科

【教育内容】

1. 社会人として必要な幅広い教養を身につけるために初年次科目や教養に関する科目を「共通教育科目」として配置します。
2. 化学と生命科学及び境界領域に関する基礎を身につけるために「物理学概論」、「基礎有機化学」、「基礎物理化学」、「基礎無機化学」、「基礎分子生物学」、「基礎生化学」の全てを必修とします。
3. 専門実験に対応できる実験技術を確実に身につけるために「化学生命理工学実験 I」及び「化学生命理工学実験 II」を必修とします。
4. 専門の文献を読むために必要となる英語力を身につけるため、「理工学英語ゼミナール I」及び「理工学英語ゼミナール II」を必修とします。
5. パソコンを用いて、①化学や分子生物学の情報検索を行うことができるようになるため、②解析ソフト・作図ソフトを活用することができるようになるため、「理工学情報処理演習」を必修とします。
6. 学生が3年次までに学修した内容を統合し、それをもって他者にはたらきかけることができるようになるために「理工学研究プロポーザル」、「研究セミナーI」、「研究セミナーII」、「卒業研究」を配置しています。

【教育方法】

1. 学生の主体的な学びを促進するために、3年次の各種演習授業ではアクティブ・ラーニング型の授業スタイルとし、時間外学習を想定した授業設計を行います。
2. 「理工学研究プロポーザル」「理工学英語ゼミナール II」では、学生のコミュニケーション力や協働実践力を養うため、教員からのフィードバック、学生間のピア評価などを取り入れます。
3. 学修ポートフォリオやそれに基づいた学生面談を年に複数回行い、学生の到達度を把握しつつ指導する体制をとります。

【教育評価】

1. GPA、「ディプロマ・ポリシーの到達度」、「学修成果の到達度」等の指標に基づいて、カリキュラムを評価します。

2. 最終学年では、学士力確認試験を行い、学士（理工学）として卒業するにふさわしい能力を身につけたかどうかを確認します。
3. 上記の指標に加えて、時期を定めて教員による学生面談や授業アンケートを実施し、形成的評価を行うことで学生の到達度を把握します。
4. 上記の評価に基づいてカリキュラムや指導方法等の点検を行い、必要に応じてカリキュラムや指導方法等の改善を行います。

■地球環境防災学科

地球環境防災学科では、地球環境と自然災害に関する基礎および専門知識と課題探求能力を身につけ、自然が関わる事象（環境・防災・減災・地域作り）に対して適切な課題設定のもと問題解決する能力を備えた人材を育成するためのカリキュラムを編成します。

【教育内容】

地球環境防災学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、地球環境と自然災害に関する基礎および専門知識と課題探求能力を身につけ、自然が関わる事象（環境・防災・減災・地域作り）に対して適切な課題設定のもと問題解決する能力を備えた学生を育成するため、学科基礎科目群と学科専攻科目群を配置しています。

〔共通教育科目〕

社会人として必要になる能力や幅広い教養を身につけるために初年次科目や教養に関する科目を配置します。

〔学科基礎科目群〕

本科目群では、「物理学概論」を必修科目として配置することで、ディプロマ・ポリシーに掲げる地球環境と自然災害に関する科目履修に向けた基礎知識を身につけ、より広範囲に及ぶ学際領域への関心を高めます。

また、実験科目のうち以下の科目を選択必修科目として配置するとともに、選択科目として、物理学、情報科学、地球惑星科学、およびそれらに関連する実験実習科目を履修することで、地球環境と自然災害に関する理工学的基礎を固めるとともに、幅広い視野と関心を育成します。

「基礎物理学実験」、「基礎地学実験」のうち1科目2単位以上を修得します。

〔学科専攻科目群〕

本科目群では、以下の科目を必修科目として配置することで、地球環境と自然災害に関する専門知識を育成します。

「地震学」、「地球環境防災実習」、「ケーススタディーⅠ」、「卒業研究」

また、以下の科目を選択必修科目として配置しています。

「地震地質学」、「構造地質学」、「岩石学」、「連続体力学」、「気象学」、「地球ダイナミクス」、「構造力学」、「地盤工学」、「水理学」から3科目6単位以上を修得します。

「地球物理学実験」、「実践野外調査実習」、「防災工学実験」から1科目2単位以上を修得します。

【教育方法】

1. 学生の主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニング型の授業科目を置くとともに、時間外学習を想定した授業設計を行います。
2. 学修ポートフォリオを活用し、学生の到達度を把握しつつ授業を進める体制をとります。
3. 学科専攻科目群では、地球環境変動分野と防災工学分野の中から、科目選択を行うことで、地球環境と自然災害に関するより専門性の高い知識と応用力を修得します。
4. 「地球環境防災実習」や「ケーススタディー」では、主として小グループ編成で授業

を展開することで、地球環境と自然災害に関する現状の理解、実験・観測・調査実習方法の修得、課題探求能力の向上を図ります。

【教育評価】

1. GPA、学修ポートフォリオ、授業アンケート、学生面談などの指標に基づいてカリキュラムの点検・評価を行います。
2. 上記に挙げた指標を適宜活用して、指導方法の点検を行います。
3. 上記のカリキュラムや指導方法等の点検・評価に基づいて、必要に応じてカリキュラムや指導方法等の改善を行います。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト（教育に関するポリシー）

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoikujoho/06/kyoiku_policy.html)

(概要)

●理工学部

理工学部は、「理学及び工学に関する基礎的知識や専門的知識の修得を通じて、グローバル化する社会の中で自ら課題を発見し解決する能力を身に付け、地域社会や国際社会において、地域イノベーションの創出と持続可能な社会づくりに貢献できる人材」を養成します。このような人材養成に向け、本学部では「数学や理科や情報科学が好きで、自然や生物、さらに情報伝達や化学反応や災害現象に好奇心と探究心を持ち、将来、社会の維持・発展に貢献する意欲のある者」を求めます。求める能力・態度の詳細は次のとおりです。

知識・技能

1. 理学・理工学を学ぶにあたって必要となる数学・理科・英語の基礎的事項に関して、高等学校卒業程度の知識を有する。
2. 実験や演習等に積極的に取り組むための知識や技能を有する。

思考力・判断力・表現力

1. 知識・技能を活用して自ら課題を見出し、その解決に向けた探求心が旺盛である。
2. 物事の考え方や判断基準を科学的・論理的にとらえることが得意である。
3. 自分が理解している事柄をわかりやすく説明することができる。

主体性・多様性・協働性（※主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

1. 自然法則や科学倫理、あるいは応用的な科学を主体的に学ぶ意欲がある。
2. 科学に関する活動等で自然に親しみ、多様な人々と社会の課題解決に取り組む意欲がある。

上記の学部共通のアドミッション・ポリシーに加えて、学科個々のアドミッション・ポリシーを以下に示します。

■数学物理学科

1. 数学又は物理学の専門知識を修得するために必要な基礎的事項を理解している。
2. 数や図形等の数学的対象、自然の本質的現象や法則に関心がある。
3. 基礎理学として数学又は物理学を学ぶ意欲がある。
4. 数学又は物理学を核として学びつつ、他の分野にも知見を広める意欲がある。

■情報科学科

1. 情報科学の専門知識を修得するために必要な基礎的事項を理解している。
2. コンピュータや情報通信技術、アルゴリズムやプログラミング等に関心がある。
3. 情報科学の広範な学問分野を学び、高度情報化社会で活躍する意欲がある。

<p>4. 情報科学を核として学びつつ、数学や物理学にも知見を広める意欲がある。</p> <p>■生物科学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物科学の専門知識を修得するために必要な基礎的事項を理解している。 2. 事実を客観的にとらえ、合理的な思考により判断できる。 3. 生物科学のさまざまな分野に興味・関心がある。 <p>■化学生命理工学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 化学や生命科学の専門知識を修得するために必要な基礎的事項を理解している。 2. 持続可能な社会を目指すための諸問題に目を向け、化学や生命科学の領域から解決する意欲がある。 3. 自然現象や身近な現象を科学的かつ論理的に考えることができる。 4. 化学反応や生命現象に関心がある。 <p>■地球環境防災学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球の成り立ち、自然現象の発生機構、防災の専門知識を修得するために必要な基礎的事項を理解している。 2. 自然との共生や国土の望ましい姿を模索・創造するための広い視野と柔軟な思考力を身に付ける意欲がある。
--

<p>学部等名 医学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：高知大学ウェブサイト (学部の教育研究上の目的) https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/kyoiku_mokuteki/gakubu_mokuteki.html) (概要)</p>
<p>●医学部 人間性豊かであり、地域医療に貢献する強い意志、多様な社会の要請に応えうる高い倫理観、使命感及び思考の柔軟性を有する医療人を育成することを目的とする。</p> <p>・医学科 高い倫理観を持ち、人間性豊かで、高度の知識・技能を身に付けた臨床医及び医学研究者を育成する。</p> <p>・看護学科 地域に暮らす人々の健康状態と生活・環境との関係を理解し、個人の主体性や価値観を尊重する看護実践者及び看護学研究者を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー) https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html)</p>
<p>●医学科 ディプロマ・ポリシー</p> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学に関する幅広い専門知識を身につけている。 ・医療人の基盤となる高い教養を身につけている。 <p>〔専門分野に関する知識〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎医学の基本的知識を修得している。 2. 臨床医学の基本的知識を修得している。 3. 社会医学の基本的知識を修得している。

4. 健康増進および疾病予防に関する知識を修得している。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 医学の基礎となる自然科学系分野の知識を修得している。
2. 生命倫理について理解している。
3. 行動科学について理解している。
4. 基本的な英語力を修得している。

【思考・判断】

- ・異なる分野の医学知識を横断的に活用することができる。
- ・自ら探求すべき課題を見つけ、問題解決に取り組むことができる。

〔論理的思考力〕

1. 基礎医学、臨床医学および社会医学の知識を水平的、垂直的に統合して応用できる。
2. 科学的根拠に基づき、分析的、批判的に思考できる。
3. 基礎医学、臨床医学および社会医学の課題について、論理的に解析、評価することができる。

〔課題探求力〕

1. 学修の場および医療現場で自ら探求すべき課題を見つけることができる。
2. 学修の場および医療現場で積極的に問題解決に取り組むことができる。

【技能・表現】

- ・基本的診療能力（コミュニケーション、診察、処置）を身につけ、医療チームの一員としての役割を意識した行動ができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 基本的な医学専門用語を理解し、使うことができる。
2. ICT（Information and Communication Technology）を利用した情報収集と情報発信ができる。
3. 収集した情報を適切な方法を用いて処理できる。
4. 患者の個人情報の保護に配慮し、適切に管理することができる。
5. 基本的な医学英語を理解し、使うことができる。

〔表現力〕

1. 自分の考えを論理的かつ明確に表現することができる。
2. 診療に関わる内容を適切な文章で表現することができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 患者および家族との適切なコミュニケーションをとることができる。
2. 医療チームの中で適切なコミュニケーションをとることができる。

〔技能〕

1. 基本的な診療技能を修得している。

【関心・意欲・態度】

- ・安心・安全な医療に関心を持ち、実践することができる。
- ・医師の社会的使命を遂行し地域医療に貢献する意欲を持っている。
- ・人間性豊かで倫理感と責任感に富む人格を身につけている。
- ・社会人としての常識と感性を身につけている。

〔協働実践力〕

1. 臨床実習をとおしてチーム医療を理解している。
2. 臨床実習をとおして地域医療を理解し、その問題点を把握することができる。
3. 医療チームの一員としての役割を認識し、多職種と協働できる。

〔自律力〕

1. 知識、技術および幅広いプロフェッショナルリズム領域にわたる継続的な自己研鑽の習慣を身につけている。

〔倫理観〕

1. 医療倫理・研究倫理の原則に従って行動することができる。
2. 医療関連法に則り行動することができる。
3. 医療安全に配慮して行動することができる。
4. 医師のプロフェッショナルリズムに基づいて行動することができる。

【統合・働きかけ】

- ・異なる分野にまたがる知識を統合し、基礎医学、臨床医学および社会医学の研究や課題解決に取り組む姿勢を身につけている。

●看護学科 ディプロマ・ポリシー

【知識・理解】

- ・医療人の基盤となる幅広い教養を身につけている。
- ・看護職に必要な基本的な知識を体系的に修得している。

【思考・判断】

- ・人々の健康や生活でおこる様々な問題を看護の視点で捉えることができる。
- ・看護の専門的知識を用いて、問題解決に取り組むことができる。

【関心・意欲】

- ・看護職としての社会的使命感を自覚し、人々の健康増進に向け、関心と意欲を持ち、地域医療に貢献することができる。

態度

- ・社会の一員としての常識と感性を身につけている。
- ・人々の生命に関わる職種であることを認識し、看護職として責任ある行動がとれる。
- ・医療の進歩に対応できるよう、自律して学び続ける姿勢を身につけている。

【技能・表現】

- ・基本的看護実践能力（コミュニケーション、看護計画立案、看護ケア）を身につけ、医療チームの一員としての役割を意識した行動がとれる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：高知大学ウェブサイト（教育に関するポリシー）

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html)

（概要）

●医学科 カリキュラム・ポリシー

1. 幅広い教養と豊かな感性を備え、高い倫理観を持つ人間性を培う

（1）自然科学系および人文科学系を含む教養科目に加えて、初年次科目として行動科学、情報処理、課題探求実践セミナーなどの科目を開講します。（D1、D2）

（2）初年次から、学内および学外の医療施設での早期医療体験実習を取り入れて、医療スタッフから直接、指導や評価を受けます。（D4）

（3）初年次から継続的にプロフェッショナルリズム教育を含む医療倫理教育を実施し、生

命倫理、医療倫理の学修により高い倫理観を養います。(D1、D4)

2. 基礎医学、臨床医学、社会医学および疾病予防に関する専門的知識を幅広く身につけ、自ら探究すべき課題を提起し、解決する能力を養う。

(1) 6年一貫教育により低学年から専門教育を導入し、各専門分野の基本的知識の定着と応用力の醸成のため、問題解決型授業の導入により自ら探求すべき課題を提起して問題解決に取り組む能力を身につけます。(D1 から D5 まで全て)

(2) 問題解決型授業において、疾患の病態生理から治療に至るまでの幅広い内容を学修することにより、基礎医学、臨床医学および社会医学の知識の横断的および縦断的統合力を養い、科学的根拠に基づく、分析的、批判的思考力を身につけます。(D1、D2、D3)

(3) 6年間を通してチーム基盤型学修(TBL: Team-Based Learning)および、問題基盤型学修(PBL: Problem-Based Learning)といった問題解決型の能動的学修法を積極的に採用します。特に高学年では多数の臨床症例に関する臨床推論にチームで取り組み、実践的な問題解決能力を養います。(D1、D2、D3、D5)

(4) 能動的学修を通じて、自分の考えを論理的、明確に表現すること、また診療に関わる内容を適切に表現する能力を養います。(D2、D3、D5)

(5) 専門課程において、各専門分野の講義で基本的な医学専門用語を学修すると共に、医学英語教育の講義を通して、必要な医学英語を身につけます。(D1、D3)

3. 研究マインドを養う

(1) 医学研究に関しては先端医療学コースやリサーチコースを開講し、医学専門教育を担当する部署で低学年から研究指導を受け、実践的な学修を通じて研究マインドを養います。(D2、D3、D5)

4. 情報の適切な収集、処理、管理を学修する

(1) 低学年から情報技術(ICT: Information and Communication Technology)を利用した、情報収集、情報処理、医療統計などの教育を継続的に行います。また、患者の個人情報保護およびその適切な管理を学修します。(D3)

5. 医療の実践力を養う

(1) 初年次からの継続的な医療安全教育により、安心・安全な医療への関心を高めます。(D4)

(2)

(2) 低学年からの継続的な医療コミュニケーション教育および、臨床実習前の基本的診療技能の学修を通して診療参加型臨床実習に向けての実践力を養います。(D3)

(3) 診療参加型臨床実習では、各専門分野の課題に取り組み、幅広い臨床推論能力を養うと共に、臨床現場での実習を通して基本的診療技能および医療コミュニケーション能力を更に高めます。また、医療チームの一員としての役割を認識し、多職種と協働できるための姿勢を身につけます。(D3、D4、D5)

6. 医師の社会的使命を理解し地域医療に貢献する意欲を醸成する

(1) 初年次の地域医療機関での早期医療体験実習に始まり、地域医療関連授業や、診療参加型臨床実習を通じて、地域医療への関心を育みます。(D4、D5)

7. 学生評価

(1) 総括的評価: 学年末における科目毎の単位認定や GPA(Grade Point Average)および、参加型臨床実習前に行われる全国共通の医療系大学間共用試験 OSCE(Objective Structured Clinical Examination)、CBT(Computer-Based Testing)等の指標に基づいて総括評価を行います。(D1 から D5 まで全て)

(2) 形成的評価: 必要に応じて、個人面談や臨床実習現場での形成的評価を行い、細や

かな指導につとめます。(D1 から D5 まで全て)

8. 教育評価

(1) 学生の成績評価に加えて、授業評価、同僚評価、外部評価などの多面的評価法を用いてカリキュラム自体を評価し、その結果をもとに一定期間を定めてカリキュラム(教育内容・指導方法)の改善を行います。

*D1~D5 については別途定めるディプロマ・ポリシーの以下に対応する。

D1 (知識・理解)

- ・医学に関する幅広い専門知識を身につけている。
- ・医療人の基盤となる高い教養を身につけている。

D2 (思考・判断)

- ・異なる分野の医学知識を横断的に活用することができる。
- ・自ら探求すべき課題を見つけ、問題解決に取り組むことができる。

D3 (技能・表現) 基本的診療能力(コミュニケーション、診察、処置)を身につけ、医療チームの一員としての役割を意識した行動ができる。

D4 (関心・意欲・態度)

- ・安心・安全な医療に関心を持ち、実践することができる。
- ・医師の社会的使命を遂行し地域医療に貢献する意欲を持っている。
- ・人間性豊かで倫理感と責任感に富む人格を身につけている。
- ・社会人としての常識と感性を身につけている。

D5 (統合・働きかけ)

・異なる分野にまたがる知識を統合し、基礎医学、臨床医学および社会医学の研究や課題解決に取り組む姿勢を身につけている

●看護学科 カリキュラム・ポリシー

看護学科のカリキュラムは、看護の基盤となる幅広い教養や豊かな人間性、倫理観に基づき、専門的な知識や技術を統合し、多様な価値観を持つあらゆる健康レベルの対象者に対して臨床判断を行い、看護を実践できる看護実践能力を身につけることを目指します。カリキュラムは、看護基盤系、看護関連の専門知識・技術を修得するための基礎看護学系・臨床看護学系・地域在宅看護学系・統合看護学系、国際的な視野と知識を修得するための国際看護学系で構成されています。また、保健師国家試験受験資格を取得するための公衆衛生看護学系および養護教諭資格を取得するための学校保健学系があります。

【教育内容】

1. 医療基盤系は、社会人と医療人の基盤となる豊かな人間性と倫理感性を育み、根拠に基づいて問題解決に向けて取り組むことができるように、全学の共通教育科目である初年次科目と教養科目で構成されています。
2. 基礎看護学系では、健康レベルの理解と健康支援に必要な社会制度、看護の原理となる知識や生活支援に必要な基礎的な技術を体系的に配置しています。
3. 地域在宅看護学系では、地域で生活する人々の健康の保持増進を目的として、生活を支えるために必要な看護の知識と技術を学ぶ科目で構成し、在宅看護論などの科目を配置しています。
4. 臨床看護学系では、生命の誕生から死に至るライフサイクルに応じて必要な看護の知識と技術を学ぶ科目で構成し、成人看護学、高齢者看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の科目を配置しています。
5. 国際看護学系では、多様な文化を理解し、グローバルな視点で国際的な看護活動ができるように、外国語や国際活動に関する科目を配置しています。
6. 統合看護学系では、各科目系の学びを統合した高度な専門性をもって、チームの一員としての役割発揮ができるよう、統合看護分野の科目を配置しています。また、看護研究、卒業研究や、災害看護、英語文献にふれる授業科目を配置しています。

7. 公衆衛生看護学系では、社会の多様な健康課題に対応できる保健師の育成を目指し、保健師国家試験受験資格取得に必要な科目を配置しています。
8. 学校保健学系は、学校教育及び児童生徒理解を基盤とした健康課題についての知識と技術を学び、養護教諭一種免許状取得に必要な科目を配置しています。

【教育方法】

1. 主体的に学ぶ力と協働力を高めるために、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施します。
2. 4年間を通して看護専門職としての基礎的能力の育成を重視した教育方法を展開します。1年次より、グループで協力して課題に取り組む機会を多く持ち、附属病院外来や病棟で患者に接する授業や看護の基礎技術を学ぶ講義・演習を実施します。2年次、3年次では看護の専門的な知識の学修と技術の習得を行い、さらに臨地の看護実習で実践能力を身につけます。4年次の統合看護実習では、対象者の健康上の問題解決・課題達成に向け、既習の技術・知識を統合しながら多重課題に取り組み、実践する力を身につけます。さらに、看護マネジメントの実際を理解し、チームの一員として果たすべき役割について考察します。また、看護研究を通して課題探求に取り組み、専門職としての知識の蓄積と探求を行う方法を身につけます。
3. 学生個々のニーズに合わせて、看護師になるための科目、保健師になるための科目、養護教諭になるための科目がコース選択でき、自らキャリア形成する力を養います。
4. 臨地実習は、1年次から地域と附属病院の実習を配置し、多様性と複雑性に対応し、多職種と連携した実践力の育成を行います。小グループ編成で展開し、チーム内の協働・連携の重要性を実践的に理解できるように進めます。個別目標の設定等自主的な取り組みを行い、指導教員および臨地指導者から、ケア場面で助言を受けながら学修を深めます。

【教育評価】

1. 1年次、3年次に GPS-Academic を受験し、社会で求められる「協働する力」や「自己管理能力」「批判的思考力」などの力を評価します。
2. 学年末における科目ごとの単位認定や、学生の学業成績を評価する方法の1つとしての、GPA (Grade Point Average) という手法を用いて総括評価を行います。
3. 本学は、学生に身に付けてほしい能力である「10+1の能力」を定めています。学生はこの能力についてセルフアセスメントシートを用いて評価します。10の能力は「対人：他者との関係性を築く力」、「對自己：自己をコントロールする力」、「対課題：課題を解決する力」の3つのカテゴリーに分類され10の能力と、これらの能力を発揮して、周囲の人や社会に働きかける力「統合・働きかけ」で構成されています。
4. 上記の学生のセルフアセスメント、授業アンケートおよび学生の面接等に基づいて、カリキュラムを評価します。
5. 学生の学びの満足度を把握するための「前年度看護学教育についての評価アンケート」を年度初めに各学年に対し実施し、教育改善の状況の評価します。
6. 「成績評価分布の状況と分析」を年度末に実施し、成績分布の妥当性について検討します。
7. 卒業時調査を実施し、ディプロマポリシーの評価とします。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト(教育に関するポリシー)

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html)

●医学科 アドミッション・ポリシー

【養成する人物像】

医学科は、「良識のある社会人として行動する力」、「コミュニケーション力」、「医学に関する幅広い知識と技能」、「地域の医療へ貢献する力」及び「自ら真理の探求に取り組む力」を有する人材を養成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

知識・技能

1. 医学知識を修得するために必要となる幅広い分野の基礎知識として、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識があり理解している。

思考力・判断力・表現力

1. 学習及び生活の中で自ら積極的に問題点をみつけ、解決方法を探求することができる。
2. 科学的根拠に基づいて問題を分析的、批判的に考え、解決することができる。
3. 自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて筋道を立てて明確に表現することができる。

主体性・多様性・協働性

1. 自発的で継続的な自己学習の習慣を身につけている。
2. 協調性や他者への深い思いやりがあり、周囲と良好なコミュニケーションをとることができる。
3. 多様な背景を持つ他者の能力を認め、同じ目標に向かって協働することができる。

関心・意欲

1. 生命科学や医学・医療に対する強い関心・意欲を持っている。
2. 高知県内の地域医療に従事する強い意欲がある。（一般選抜〔地域枠〕、学校推薦型選抜Ⅱ、総合型選抜Ⅰ）
3. 社会的な善悪に対して正しく判断し、自分の発言や行動に責任を持つことができる。

●看護学科 アドミッション・ポリシー

【養成する人物像】

看護学科は、「教養と専門知識を基盤に、人々のところに寄り添う感性と高い社会正義感を持って、看護実践能力を用いて、人々の健康と生活を支えることができる看護専門職」を養成します。同時に、「社会に生じてくるさまざまな問題を看護の視点でとらえ、多職種と協働しながら課題の解決に向かうよう自ら学びつづけ、よりよい医療・看護を実現できる革新力を備えた人材」の養成を目指します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

知識・技能

1. 看護学・医学を学ぶために必要な高等学校卒業程度の知識があり、特に理科・社会・英語の基礎学力を有する。

思考力・判断力・表現力

1. 筋道を立てて物事を考え、的確な判断ができる。
2. 自分の考えや思いをわかりやすく伝えることができる。

主体性・多様性・協働性

1. 他の人と協働しながら、主体的に取り組むことができる。
2. 自ら学び、挑戦することができる。

<p>3. 相手の立場に敬意を払い、関心を持って他の人の話を聞くことができる。</p> <p>関心・意欲</p> <p>1. 人と触れ合うことが好きであり、人々の健康と生活を支える専門職を目指す意欲がある。</p>
--

学部等名 農林海洋科学部

<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：高知大学ウェブサイト (学部の教育研究上の目的))</p> <p>https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/kyoiku_mokuteki/gakubu_mokuteki.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>幅広い教養及び農学・海洋科学分野に関連する自然科学や社会科学についての専門知識を統合的に教育することを目的とする。山から海までの広範なフィールドにおける実践学習を展開し、人と環境が調和のとれた共生関係を保ちながら持続可能な社会の構築を志向する人材を育成する。</p>
--

<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー))</p> <p>https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>●農林海洋科学部</p> <p>【知識・理解】幅広い教養と農学、海洋科学のそれぞれの分野における専門的知識と実践的技術を統合的に身につけ、的確な理解力を有している。</p> <p>【思考・判断】農学、海洋科学のそれぞれの分野における専門的知識・実践的技術と幅広い教養を統合させ、適切に活用する思考方法を身につけ、妥当な判断ができる。</p> <p>【関心・意欲】農学、海洋科学のそれぞれの分野に対して常に関心を持ち、的確な判断に基づいて問題を解明しようとする意欲を有している。</p> <p>【態度】地域社会及び国際社会の健全な発展に寄与しようとする態度を有し、技術者や研究者の責任と役割を自覚している。</p> <p>【技能・表現】農学、海洋科学のそれぞれの分野に固有の研究手法の基礎を身につけている。自分の意見や考えを的確に表現でき、異分野を含む様々な人とそれぞれの分野に関連した意見交換ができる汎用的能力を身につけている。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー))</p> <p>https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>●農林海洋科学部</p> <p>■農林資源環境科学科</p> <p>農林資源環境科学科は、農業、林業、ならびに、それらを取りまく生産環境、さらには、人と自然環境との共生に関わる広い教養と深い専門知識、ならびに実践的スキルを身につけ、農学関連分野にかかわる諸課題を自律的に解決できる能力を備えつつ、地域社会及び国際社会の健全かつ持続的な発展に貢献できる人材を育成することをめざし、カリキュラムを次の方針により編成し実施します。</p> <p>【教育内容】</p> <p>1. 自然科学系及び人文科学系を含む教養科目に加えて、初年次科目として「大学基礎論」、「情報処理」、「学問基礎論」などの科目を開講します。また、学部共通での「フィールドサイエンス実習」を配置し、農林水産業や自然と人間の関わりについて学ぶとともに農</p>
--

林資源環境科学への関心を高める学びを提供します。

2. 農林資源環境科学に関する基礎知識と基本的技能、持続可能な生産・発展、環境保全及び循環型社会に対する理解を修得するため、「農林学概論」、「生物学概論」、「化学概論」、「植物学」、「農林資源環境科学基礎実習Ⅰ」、「農林資源環境科学基礎実習Ⅱ」、「農林資源環境科学基礎実習Ⅲ」、「物理学概論」、「水資源学」、「農学生産基礎」、「生態学」、「農林統計学」、「農林環境科学」の必修科目を1年次から2年次第1学期までに配置します。
3. 農林資源環境科学に関する専門応用科目を「暖地農学」、「森林科学」、「生産環境管理学」及び「自然環境学」の4領域に分類しています。2年次第2学期から各領域の概論的科目とそれらに関連する実験科目を配置し、専門基盤科目から一歩進んだ専門性の高い知識と実践的技術知識を積極的に求め、主体的に問題解決にあたらうとする意欲を修得することをめざします。
4. 農林資源環境科学に関する専門発展科目として、3年次には「外国書講読Ⅰ」、「外国書講読Ⅱ」、4年次には「卒業論文」、「卒業論文演習Ⅰ」、「卒業論文演習Ⅱ」を必修科目とします。
5. 農林資源環境科学に関する専門発展科目として、「暖地農学」、「森林科学」、「生産環境管理学」、及び「自然環境学」の4領域の専門性をより深化させた先端的内容を扱う科目や、産業や職種、資格取得などに対応した科目を選択科目として領域ごとに配置しています。専門応用科目と専門発展科目を通して、主・副領域の科目を選択履修することで、学生に、先端的知识や技術を成立させている学問の体系的組み立てを理解するとともに、ひとつの分野のみにとどまらない柔軟な思考能力と幅広い知識を身につけることを促し、学際性の拡大を担保します。
6. JABEE認定生産環境管理学プログラムを選択する学生は、上記の各項によらず、生産環境管理学プログラムの指定するカリキュラムマップにしたがって履修することになります。

【教育方法】

1. 1年次第1学期から3年次第1学期まではアドバイザー教員、3年次第2学期以降は卒業論文の主旨導教員との個別面談を通して、学生生活と学修成果の振り返りを行い、課題解決に向けて自律して学び続ける姿勢を培います。
2. 2年次第2学期から学生は「暖地農学」、「森林科学」、「生産環境管理学」、及び「自然環境学」の4領域から主専攻領域及び副専攻領域をひとつずつ選び、各領域の専門応用科目（主専攻領域から11単位以上、副専攻領域から5単位以上）を履修します。
3. 学生の主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニング型の授業科目を置くとともに、時間外学習を想定した授業設計を行います。
4. 卒業論文は主旨導教員による指導体制の下で行います。また、そのパフォーマンス評価と最終審査は学科全教員により行います。
5. 学修ポートフォリオやそれに基づいた学生面談を行い、学生の到達度を把握しつつ指導する体制をとります。

【教育評価】

1. 4年間の学修成果は、卒業論文によって、その到達目標の到達度で総括的評価を行います。
2. 授業評価については、授業アンケート等も活用し、教育手法の検証と改善を図ります。
3. GPA、「ディプロマ・ポリシーの到達度」、「学修成果の達成度」等の指標に基づいて、カリキュラムを評価します。
4. 上記の指標に加えて、時期を定めて教員による学生面談を実施し、形成的評価を行うことで学生の到達度を把握し、指導方法の見直しを行います。

■農芸化学科

農芸化学科では、化学的視点から生物生産を幅広く探求でき、その成果を地域社会への

貢献に結びつけられる人材の育成をめざし、ディプロマ・ポリシーを設定しています。このディプロマ・ポリシー達成のため、カリキュラムを次の方針により編成し実施します。

【教育内容】

1. 社会人として必要とされる能力や教養を身につけるために、共通教育科目として、自然科学系をはじめとする教養科目に加え、初年次科目として「課題探求実践セミナー」等を開講します。
2. 農芸化学に関する基礎知識を修得するため、「農芸化学概論」、「植物資源科学」、「基礎分析化学」、「土壌学」、「基礎有機化学」、「生物化学」、「食品化学」、「植物感染病学」、「動物生産・繁殖学」を必修とします。
3. 農芸化学に関する基礎実験技術を修得するため、「フィールドサイエンス実習」、「生物環境化学実験」、「植物化学実験」、「動植物健康化学実験」、「微生物化学実験」を必修とします。
4. 農芸化学に関する専門応用科目を「生物環境化学科目群」、「動植物健康化学科目群」及び「微生物化学科目群」に分類しています。2年次第1学期から4年次第1学期に段階的に配置し、化学を基盤とする生物生産に関係する幅広い知識と生物生産への応用についての思考力を涵養します。
5. 農芸化学に関する専門発展科目として、「農芸化学応用実験Ⅰ」、「農芸化学応用実験Ⅱ」や卒業論文関連科目を配置し、先端研究に取り組み、問題発見、計画立案、データ収集、成果の提示、解決策の提案等の能力を養成します。また、研究成果を地域社会への貢献に結びつけることに対する意欲を向上させるため、「先端農芸化学研修」、「フードビジネス概論」、「植物医学概論」を配置しています。これらを通じて、異分野を含む国内外の様々な人と農芸化学分野に関連した意見交換ができる素養を身につけ、地域社会及び国際社会の中で農芸化学分野に携わる者としての責任と役割の自覚を促します。

【教育方法】

1. 1年次第1学期から3年次第1学期まではアドバイザー教員、3年次第2学期以降は卒業論文の主旨指導教員との個別面談を通して、学生生活と学修成果の振り返りを行い、課題解決に向けて自律して学び続ける姿勢を培います。
 2. 学生の主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニング型の授業科目を置くとともに、時間外学習を想定した授業設計を行います。
3. 卒業論文は主旨指導教員、副指導教員による複数の指導体制の下で行います。また、そのパフォーマンス評価と最終審査は学科全教員により行います。
4. 学修ポートフォリオやそれに基づいた学生面談を行い、学生の到達度を把握しつつ指導する体制をとります。

【教育評価】

1. 4年間の学修成果は、卒業論文によって、その到達目標の到達度で総括的評価を行います。
2. 授業評価については、授業アンケート等も活用し、教育手法の検証と改善を図ります。
3. GPA、「ディプロマ・ポリシーの到達度」、「学修成果の達成度」等の指標に基づいて、カリキュラムを評価します。
4. 上記の指標に加えて、時期を定めて教員による学生面談を実施し、形成的評価を行うことで学生の到達度を把握し、指導方法の見直しを行います。

■海洋資源科学科

海洋資源科学科では、「海洋生物生産学」、「海底資源環境学」、「海洋生命科学」の3コースを設置し、天然資源の維持管理・有効利用に関連して3コースが有機的に連携・機能することで、多様化・複雑化する諸課題の解決に対応でき、地域社会や国際社会で活躍できる「海洋専門人材」の育成を目指し、ディプロマ・ポリシーを設定しています。このディプロマ・ポリシー達成のため、カリキュラムを次の方針により編成し実施します。

【教育内容】

1. 社会に生きる人間として必須な一般的教養を広く身につけるため、「学問基礎論」等の初年次科目と共に多様な分野の教養科目を配置しています。
2. 広い視野で農学及び海洋科学研究への関心を高めるため、『学科共通科目群』の専門基盤科目として、1年次に学部全体を通しての必修科目「フィールドサイエンス実習」を配置しています。また、適切な海洋資源管理に必要な知識を身につけるための「総合的海洋管理教育プログラム」科目群を学科共通で配置しています。
3. 国際的にも活躍できる人材を養成することを目的とし、「科学英語Ⅰ」、「科学英語Ⅱ」を配置しています。また、異なる分野の研究者や専門外の市民とも議論できる能力・技能の修得を目指し、3年次に「科学コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」を配置しています。
4. 4年次には、先端研究に取り組むことで、問題発見、計画立案、データ収集、成果の提示、解決策の提案等の能力を養成することを目的とし、「学科共通科目群」の専門発展科目として卒業論文関連科目を配置しています。

【教育方法】

1. 1年次第1学期から3年次第1学期まではアドバイザー教員、3年次第2学期以降は卒業論文の主旨指導教員との個別面談をそれぞれ通して、学生生活と学修成果の振り返りを行い、課題解決に向けて自律して学び続ける姿勢を培います。
2. 学生の主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニング型の授業科目を配置するとともに、時間外学習を想定した授業設計を行います。
3. 4年次には、「卒業論文関連科目」による個人指導を行い、卒業論文を作成します。各コースにおいて全教員による卒業論文の内容に関する最終審査を行い、必要な知識・技術・展開力など、十分な専門能力が身につけているかどうかを確認します。
4. いずれのコースにおいても、教育の質を保証し適切に履修指導が行えるよう、学修ポートフォリオやそれに基づいた学生面談を行い、学生の到達度を把握しつつ指導する体制をとります。

【教育評価】

1. 4年間の学修成果は、卒業論文によって、その到達目標の到達度で総括的評価を行います。授業評価については、授業アンケート等も活用し、教育手法の検証と改善を図ります。
2. GPA、「ディプロマ・ポリシーの到達度」、「学修成果の達成度」等の指標に基づいて、カリキュラムを評価します。
3. 上記の指標に加えて、時期を定めて教員による学生面談を実施し、形成的評価を行うことで学生の到達度を把握し、指導方法の見直しを行います。

◆海洋生物生産学コース

海洋生物生産学コースは、海洋資源科学のなかで、特に海洋生物資源に関わる生物学的、化学的専門知識の探求を通じて、海洋産業の振興と創出を担う技術者・研究者の育成を目指し、ディプロマ・ポリシーを設定しています。このディプロマ・ポリシー達成のため、カリキュラムを次の方針により編成し実施します。

【教育内容】

1. 海洋生物生産学コースの専門科目は、学科共通科目を含め、各科目について専門基盤科目から専門応用科目、専門発展科目へと配置しています。
2. 海洋生物生産学コースにおける独自の専門応用科目（実験科目を含む）及び専門発展科目を2～3年次に段階配置することで、海洋生物の生態・生産ならびに環境保全などに関わる幅広い知識を修得し、生物学、化学及び水産学的知識と手法に基づいて思考する力を涵養します。

【教育方法】

1. 1年次第1学期から3年次第1学期まではアドバイザー教員、3年次第2学期以降は卒業論文の主指導教員との個別面談を通して、学生生活と学修成果の振り返りを行い、課題解決に向けて学生が自律して学び続ける姿勢を培います。
2. 学生の主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニング型の授業科目を置くとともに、時間外学習を想定した授業設計を行います。
3. 4年次には、主指導教員による「卒業論文関連科目」を通じて、実験・調査、論文講読ならびに卒業論文の作成を個人指導します。コース担当教員による卒業論文の最終審査を行い、身につけるべき知識・技術・展開力などの専門能力について確認します。
4. 教育の質保証、適切な履修指導のために、学生面談を行い、学生の到達度を把握しつつ指導する体制をとります。

【教育評価】

1. 4年間の学修成果は、卒業論文によって、その到達目標の到達度で総括的評価を行います。授業評価については、授業アンケート等も活用し、教育手法の検証と改善を図ります。
2. GPA、「ディプロマ・ポリシーの到達度」、「学修成果の達成度」等の指標に基づいて、カリキュラムを評価します。
3. 上記の指標に加えて、時期を定めて教員による学生面談を実施し、形成的評価を行うことで学生の到達度を把握し、指導方法の見直しを行います。

◆海底資源環境学コース

海底資源環境学コースでは、地学、化学、物理学の分野から「海底資源」の探査と開発、周囲の海洋環境からその形成メカニズムを理解することができ、また、「海底資源」の持続的開発を行うため、環境保全も視野にいたれた技術者・研究者の育成を目指し、ディプロマ・ポリシーを設定しています。このディプロマ・ポリシー達成のため、カリキュラムを次の方針により編成し実施します。

【教育内容】

1. 海底資源環境学コースの専門科目は、学科共通科目を含め、各科目について専門基盤科目から専門応用科目、専門発展科目へと配置しています。
2. 2～3年次に、海底資源環境学コース独自の専門応用科目（実験科目を含む）を段階的に配置し、「海底資源」の探査と開発、周囲の海洋環境からその形成メカニズムについて理解できる幅広い知識を修得し、地学的、化学的及び物理学的知識と手法に基づいて思考する力を涵養します。

【教育方法】

1. 1年次第1学期から3年次第1学期まではアドバイザー教員、3年次第2学期以降は卒業論文の主指導教員との個別面談を通して、学生生活と学修成果の振り返りを行い、課題解決に向けて自律して学び続ける姿勢を培います。
2. 学生の主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニング型の授業科目を置くとともに、時間外学習を想定した授業設計を行います。
3. 4年次には、「卒業論文関連科目」による個人指導を行ない、卒業論文を作成します。内容については、全教員による卒業論文の最終審査を行い、必要な知識・技術・展開力など、十分な専門能力を身につけていることを確認します。
4. 教育の質を保証し適切に履修指導が行えるよう、学修ポートフォリオやそれに基づいた学生面談を行い、学生の到達度を把握しつつ指導する体制をとります。

【教育評価】

1. 4年間の学修成果は、卒業論文によって、その到達目標の到達度で総括的評価を行います。授業評価については、授業アンケート等も活用し、教育手法の検証と改善を図ります。
2. GPA、「ディプロマ・ポリシーの到達度」、「学修成果の達成度」等の指標に基づいて、カリキュラムを評価します。
3. 上記の指標に加えて、時期を定めて教員による学生面談を実施し、形成的評価を行うことで学生の到達度を把握し、指導方法の見直しを行います。

◆海洋生命科学コース

海洋生命科学コースでは、海洋生物・微生物から医薬・化学素材やエネルギーといった有用化学資源の探求を通じて、海洋産業の振興と創出に貢献できる技術者・研究者の育成を目指し、ディプロマ・ポリシーを設定しています。このディプロマ・ポリシー達成のため、カリキュラムを次の方針により編成し実施します。

【教育内容】

1. 海洋生命科学コース専門科目は、学科共通科目を含め、専門基盤科目、専門応用科目、及び専門発展科目を配置しています。
2. 海洋生命科学コースにおける独自の専門応用科目（実験科目を含む）を段階的に配置し、海洋生物の生態、物質化学、ライフサイエンスに関係する幅広い知識を修得し、化学的及び生物学的知識と手法に基づいて思考する力を涵養します。

【教育方法】

1. 1年次第1学期から3年次第1学期まではアドバイザー教員、3年次第2学期以降は卒業論文の主旨指導教員との個別面談を通して、学生生活と学修成果の振り返りを行い、課題解決に向けて自律して学び続ける姿勢を培います。
2. 学生の主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニング型の授業科目を置くとともに、時間外学習を想定した授業設計を行います。
3. 4年次には、「卒業論文関連科目」による個人指導を行ない、卒業論文を作成します。内容については、全教員による卒業論文の最終審査を行い、必要な知識・技術・展開力など、十分な専門能力を身につけていることを確認します。
4. 教育の質を保証し適切に履修指導が行えるよう、学修ポートフォリオやそれに基づいた学生面談を行い、学生の到達度を把握しつつ指導する体制をとります。

【教育評価】

1. 4年間の学修成果は、卒業論文によって、その到達目標の到達度で総括的評価を行います。授業評価については、授業アンケート等も活用し、教育手法の検証と改善を図ります。
2. GPA、「ディプロマ・ポリシーの到達度」、「学修成果の達成度」等の指標に基づいて、カリキュラムを評価します。
3. 上記の指標に加えて、時期を定めて教員による学生面談を実施し、形成的評価を行うことで学生の到達度を把握し、指導方法の見直しを行います。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト（教育に関するポリシー）

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html)

<p>(概要)</p> <p>●<u>農林海洋科学部</u></p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農学、海洋科学に関連するそれぞれの専門知識を修得するために必要となる、高等学校で履修する各教科の基礎的事項を理解している。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物事を客観的にとらえることができる。 ・得られた知識やデータに基づいて科学的・論理的に判断することができる。 ・言語や数式を使って、自らの思考を適切に表現する基礎が身についている。 <p>【主体性・多様性・協働性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科に関連する学問や研究に強い関心を持ち、主体的かつ真摯に学ぶことができる。 ・豊かな感性、高い倫理観、協調性を備え、真摯に学ぶことができる。 ・さまざまな分野に興味を持つ多様な人々と、科学的な視点から意見交換ができる。 ・チームの一員として主体的・積極的に活動する意欲がある。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農学、海洋科学に関連するそれぞれの分野に関心を持ち、それらの分野について意欲的・積極的に学ぶ熱意がある。 ・社会に役立つ研究・開発を行う意欲がある。

<p>学部等名 地域協働学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：高知大学ウェブサイト(学部の教育研究上の目的))</p> <p>https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/kyoiku_mokuteki/gakubu_mokuteki.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>地域及びキャンパスでの協働的学びによって、地域理解力、企画立案力、協働実践力を基盤とした地域協働マネジメント力を修得させ、総合的かつ的確な判断力と何事も最後までやりぬく粘り強さを身につけさせる。このことを通じて、地域の再生と発展を担う「地域協働型産業人材」として、①6次産業化人、②産業の地域協働リーダー、③行政の地域協働リーダー、④生活・文化の地域協働リーダーを育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：高知大学ウェブサイト(教育に関するポリシー))</p> <p>https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>●<u>地域協働学部地域協働学科</u></p> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次産業、地域の健康・福祉およびコミュニティに関する知識を中心に地域の産業および生活・文化に関する幅広い専門的知識を身につけている。 ・地域計画、地域資源管理、商品開発に関する専門的知識を身につけている。 ・プロジェクトマネジメント、協働マネジメントおよびファシリテーションに関する専門的知識を身につけている。 <p>[専門分野に関する知識]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域協働に関する専門的知識を修得している。 2. 地域協働に関する専門的知識を地域で活用することができる。 <p>[人類の文化・社会・自然に関する知識]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域協働に関する基礎的で幅広い知識を修得している。 2. 地域協働に関する基礎的で幅広い知識を地域で活用することができる。

【思考・判断】

- ・複雑で多様な地域の特性を理解することができる。
- ・地域資源を開発・活用するための企画を立案することができる。

〔論理的思考力〕

1. 論理的に考え、表現することができる。
2. 必要な情報を収集した上で、企画を立案することができる。

〔課題探求力〕

1. 地域における課題を探求・発見することができる。

【技能・表現】

- ・地域計画、地域資源管理、商品開発に関する技法を身につけて、活用することができる。
- ・プロジェクトマネジメント、協働マネジメントおよびファシリテーションに関する技法を身につけ、活用することができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. ヒアリング等を行って必要な情報を収集することができる。

〔表現力〕

1. 地域の状況・地域の人たちの考えを知ることを通じて、状況を把握し、レポート等にまとめることができる。
2. 地域の特性や課題について、ヒアリング等を基に、その関係性を理解し、レポート等にまとめることができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 地域の人たちとコミュニケーションを取ることができる。
2. 地域主体の活動を知ることを通じて、地域社会に関心・共感を持つことができる。
3. 建設的なチームづくりに貢献することができる。
4. リーダーシップをとることができる。

【関心・意欲・態度】

- ・自ら人や組織の協働を作り出し、その活動を促進することができる。

〔協働実践力〕

1. 事業計画の達成に向けて、協働を組織し、持続的に実践することができる。
2. 学習プロセス（ワークショップ）を企画・構築することができる。
3. ワークショップをファシリテートしながら運営することができる。

〔自律力〕

1. 自己管理習慣を身につけている。

〔倫理観〕

1. 地域で活動するための基本マナーを身につけている。

【統合・働きかけ】

1. 商品（事業）開発及び事業計画の立案に必要な情報を収集し、商品（事業）開発することができる。
2. 事業計画の立案に必要な情報を収集し、事業計画を立案することができる。
3. 事業評価案を作成することができる。

4. 関係者の合意形成によって事業改善案をとりまとめることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト(教育に関するポリシー)

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku_joho/06/kyoiku_policy.html)

(概要)

●地域協働学部地域協働学科

【教育内容】

地域協働学部の学士像(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、教室における知識の修得と地域の現場における実践の往還の中で「地域協働マネジメント力」を身につけることをめざし、本学部教育課程を編成しています。

1. 共通教育科目

人文・社会・自然の各分野にわたる幅広い教養を身につけるために、共通教育科目を配置しています。

2. 講義科目、演習科目

専門分野の知識・技法を修得するために、「総合科目」及び「地域協働マネジメント分野」、「地域産業分野」、「地域生活分野」の科目を配置しています。「総合科目」は、基礎的専門知識・技法を学ぶ科目と位置づけ、主に、必修又は選択必修として1年次を中心に配置しています。また、3つの分野においては、2年次以降に学生自らがめざす人材像を念頭に置きながら、各分野から1科目2単位以上を選択して専門分野の知識・技法を修得するよう科目を配置しています。

3. 実習科目

地域の特性を理解し、地域の人々と協働しながら、事業企画を立案・実施するために、「実習科目」を地域における実践を行う科目と位置づけ1年次から3年次まで必修科目として配置しています。

4. 地域協働研究

講義科目における理論的学びと実習科目における実践的学びを統合するために、「地域協働研究」を各学年の学修を総括し進級評価を行う科目と位置づけ、1年次から3年次まで必修科目として配置しています。

5. 地域協働実践・卒業研究

本学部における学修の集大成のために、「地域協働実践・卒業研究」を4年間の学びの成果を総括する科目と位置づけ4年次の必修科目として配置しています。

【教育方法】

1. アクティブ・ラーニング

学生の主体的な学びを促進させるために、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施します。

2. ルーブリック

学生の学修の到達度・評価基準を明確にすることで、学生自身が自己の学修到達度を確認できそのことにより学修意欲が向上することをめざし、「実習科目」において、本学部が養成をめざす人材が身につけるべき「地域協働マネジメント力」を構成する3つの能力である「地域理解力」「企画立案力」「協働実践力」に関するルーブリックを用いて、学修指導及び学修評価を実施します。

3. フィードバック

学生の学修をより深めるため、「実習科目」における「実習振り返りシート」や「地域協働研究」における「学びの振り返りシート」に対するフィードバックをはじめ、各種授業科目で学生に対するフィードバックを用いた学修指導を実施します。

4. 面談

学生の学修状況を把握し適切な指導を行うため、「地域協働研究」において、年間4回の面談により学修指導を実施します。

5. チームティーチング

授業内容・教育方法をより高めるため、「実習科目」「地域協働研究」において、授業担当者会議の中で、授業内容の交流や調整及び授業に関するFDを行います。その他の複数教員が担当する授業でも、教員が相互に協力し合い授業を実施します。

【教育評価】

1. 学生の学修成果に関する評価

各学年末において、進級及び卒業に関して適切な能力を有しているか判断するとともに、学生の学修支援を重視しながら単位の実質化を図ることをめざし、進級評価・卒業評価を実施します。1年次から3年次までは、①GPAによる評価、②地域協働マネジメント力を構成する3つの能力の「ルーブリック」評価を含む実習科目の評価、③論理的な学びと実践的な学びを統合する「地域協働研究」における学年研究論文等の評価を総合して進級評価を実施します。4年次では、「地域協働実践・卒業研究」において、地域協働型プロジェクト実施・卒業研究の成果に基づき卒業評価を実施します。

2. 各教員の教育内容・教育方法の改善

各教員は、授業改善アンケートによる意見聴取や、学生面談による学修到達度の把握等に基づき、教育内容・教育方法の改善を行います。

3. カリキュラムの改善

学部は、「ディプロマ・ポリシーの到達度」「学修成果の到達度」等の指標に基づいて、カリキュラムを評価し、その結果を基にカリキュラムの改善を行います。

入学卒の受入れに関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト(教育に関するポリシー)

https://www.kochi-u.ac.jp/kyoiku.joho/06/kyoiku_policy.html)

(概要)

●地域協働学部地域協働学科

地域協働学部は、地域理解力、企画立案力、協働実践力という3つの知識・能力を統合した「地域協働マネジメント力」を有し、多様で複雑な地域の課題を発見・分析・統合し、産業の分野や領域の壁を越えて人や組織などの協働を創出でき、卒業後即戦力として活躍できる「地域協働型産業人材(6次産業化人、地域協働リーダー)」を養成します。

本学部では、このような人材養成の基盤となる、以下の能力・態度を有する者を求めます。

知識・技能

1. 入学までの過程で理系・文系を問わず幅広い教科を積極的に学び、地域協働に関連する専門的知識を修得するために必要となる幅広い分野の基礎知識として、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識があり理解している。

思考力・判断力・表現力

1. 論理的思考力と理性的判断力を持って物事に取り組むことができる。

2. 自らの行動や体験について深く見詰め直し、客観的に分析することができる。
3. 自分の表現を客観的に見詰め、他者に伝わる表現を心がけており、口頭と文章の両面にわたって十分な表現力を持っている。
4. 豊かな教養に裏打ちされた能力で、課題の発見・探求とその解決にあたることができる。

主体性・多様性・協働性

1. 学生同士の協働を基礎として、チームとして考え、行動し、課題の解決にあたることのできる。
2. さまざまな行動体験がある。
3. 地域や日本社会に生起する問題の解決に挑戦する行動力を有する。

関心・意欲

1. さまざまな問題領域の知識や技術に対して関心がある。
2. 地域や日本社会に生起する問題に関心がある。
3. 地域社会に存在する諸課題とその実践的解決、特に地域産業の振興に関心があり、積極的に地域社会の人々と協働する意欲がある。
4. さまざまな行動体験を自らのキャリア形成や地域社会の人々の協働に活かす意欲がある。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：高知大学ウェブサイト（教育情報の公表）
<https://www.kochi-u.ac.jp/kyoikujoho/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	7人	—					7人
人文社会科学部	—	23人	25人	5人	0人	0人	53人
教育学部	—	33人	12人	8人	2人	0人	55人
理工学部	—	32人	20人	12人	5人	0人	69人
医学部	—	46人	32人	47人	111人	0人	236人
農林海洋科学部	—	37人	20人	9人	4人	0人	70人
地域協働学部	—	10人	7人	4人	1人	0人	22人
その他	—	43人	26人	6人	44人	0人	119人
計	7人	224人	142人	91人	167人	0人	631人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
6人		225人					231人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： http://www.jimu.kochi-u.ac.jp/~soran/index.html					

c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

教育力向上を目的に新任教員研修プログラムの受講を義務化しているほか、全学で年間 70 講座以上の研修を実施するとともに、全教職員に授業参観を開放し教育改善や業務改善への意識改革に取り組んでいます。また、四国地区の高等教育機関で構成されている四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）へもコアメンバーとして参画し、教職員の能力開発を推進しています。

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	—	—	—	—	5 人	—	—	—
人文社会科学部	275 人	286 人	104.0%	1,120 人	1,220 人	108.9%	10 人	9 人
教育学部	130 人	140 人	107.7%	520 人	559 人	107.5%	—	—
理学部	—	—	—	—	5 人	—	—	—
理工学部	240 人	252 人	105.0%	980 人	1043 人	106.4%	10 人	8 人
医学部医学科	110 人	111 人	100.9%	685 人	712 人	103.9%	5 人	5 人
医学部看護学科	60 人	61 人	101.7%	260 人	265 人	101.9%	10 人	10 人
農学部	—	—	—	—	2 人	—	—	—
農林海洋科学部	200 人	207 人	103.5%	800 人	843 人	105.4%	—	—
地域協働学部	60 人	60 人	100%	240 人	271 人	112.9%	—	—
合計	1075 人	1,117 人	103.9%	4,605 人	4925 人	106.9%	35 人	32 人

(備考)

人文学部：平成 28 年度募集停止

理学部：平成 29 年度募集停止

農学部：平成 28 年度募集停止

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	12 人 (100%)	1 人 (8.3%)	6 人 (50.0%)	5 人 (41.7%)
人文社会科学部	291 人 (100%)	11 人 (3.8%)	245 人 (84.2%)	35 人 (12.0%)
教育学部	134 人 (100%)	13 人 (9.7%)	113 人 (84.3%)	8 人 (6.0%)
理学部	14 人 (100%)	1 人 (7.1%)	6 人 (42.9%)	7 人 (50.0%)
理工学部	230 人 (100%)	82 人 (35.7%)	131 人 (57.0%)	17 人 (7.4%)
医学部	174 人 (100%)	4 人 (2.3%)	60 人 (34.5%)	110 人 (63.2%)
農学部	3 人 (100%)	0 人 (0%)	2 人 (66.7%)	1 人 (33.3%)

農林海洋科学部	190人 (100%)	52人 (27.4%)	118人 (62.1%)	20人 (10.5%)
地域協働学部	51人 (100%)	3人 (5.9%)	47人 (92.2%)	1人 (2.0%)
合計	1,099人 (100%)	167人 (15.2%)	728人 (66.2%)	204人 (18.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
人文社会科学部	300人 (100%)	241人 (80.3%)	42人 (14.0%)	17人 (5.7%)	0人 (0%)
教育学部	137人 (100%)	125人 (91.2%)	8人 (5.8%)	4人 (2.9%)	0人 (0%)
理工学部	255人 (100%)	202人 (79.2%)	30人 (11.8%)	23人 (9.0%)	0人 (0%)
医学部医学科	110人 (100%)	87人 (79.1%)	19人 (17.3%)	4人 (3.6%)	0人 (0%)
医学部看護学科	58人 (100%)	53人 (91.4%)	4人 (6.9%)	1人 (1.7%)	0人 (0%)
農林海洋科学部	207人 (100%)	174人 (84.1%)	21人 (10.1%)	12人 (5.8%)	0人 (0%)
地域協働学部	62人 (100%)	44人 (71.0%)	16人 (25.8%)	2人 (3.2%)	0人 (0%)
合計	1129人 (100%)	926人 (82.0%)	140人 (12.4%)	63人 (5.6%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 本学では2学期制を採用し、各学期に授業15週と試験1週の合計16週の時間を確保するよう学年暦及び年間行事予定を年度ごとに策定しています。 授業計画(シラバス)の作成にあたっては、開講の前年度12月までに履修案内(授業の履修方法、卒業のために必要な単位数、授業時間割等を記載した冊子(全学生に配布))の作成過程で開講する授業科目を確定します。授業実施教員は、1月から2月の間に全学的に定めた統一様式へ授業計画を記載し開講主体である各学部等の確認を経て、本学のウェブサイトを通じて教務情報システムにより学内外へ公表しています。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各授業のシラバスにおいて、授業の到達目標に掲げた内容について、どのような方法(期末試験、レポート提出など)で何点の配分で評価するのかを記載しており、この基準により厳格かつ適正に単位を付与しています。 授業では、授業科目ごとに到達目標を達成したかどうかによって成績評価することを基本と
--

しており、成績は 100 点から 0 点の評点により評価し、60 点以上に単位を与えることとして
います。また、その評点に対応する評語として、「秀」、「優」、「良」、「可」及び「不可」
を用いますが、必要と認める場合は、「合格」又は「不合格」の評語で評価できることとして
います。

秀：到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準
をはるかに上回る成績（90 点～100 点）

優：到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準
を上回る成績（80 点～89 点）

良：到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用し
ていると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績（70 点～79 点）

可：標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・
把握していると判定できる成績（60 点～69 点）

不可：到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふ
さわしくないと判定できる成績（59 点以下）

また、高知大学のディプロマ・ポリシーは、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」
「態度」「技能・表現」の領域で定義され、卒業までに身につけてほしい 10+1 の能力を定め
ています。

学生がこれらの 10 の能力を学士課程全体で身につけ、さらにそれらの諸能力が学生自身の
内部で統合され、世の中に働きかける汎用的な力（+1 の能力）となるような教育をめざしま
す。このような力を背景にもち、高度で実践的な専門能力を身につけることにより、地域社会
や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を育成し、各学部等で定める必要単位数を修得した
者に学位を授与します。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文社会科学部	人文社会科学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
教育学部	学校教育教員養成課 程 教育科学コース 国語教育コース 社会科教育コース 数学教育コース 理科教育コース 英語教育コース 音楽教育コース 美術教育コース 保健体育教育コース 技術教育コース 家庭科教育コース	137 単位	有	1 学期間 22 単位
	学校教育教員養成課 程 幼児教育コース 科学技術教育コース 特別支援教育コース	149 単位	有	1 学期間 22 単位
理工学部	数学物理学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
	情報科学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
	生物科学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
	化学生命理工学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
	地球環境防災学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
医学部	医学科	227 単位	有	該当なし

	看護学科	128 単位	有	該当なし
農林海洋科学部	農林資源環境科学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
	農芸化学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
	海洋資源科学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
地域協働学部	地域協働学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：高知大学教務情報システム (履修案内) 全学共通事項メニュー https://www-kulas.jimu.kochi-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/study_guide/study_guide.aspx		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：高知大学ウェブサイト (教育情報の公表) https://www.kochi-u.ac.jp/kyoikujo/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：高知大学ウェブサイト (教育情報の公表) https://www.kochi-u.ac.jp/kyoikujo/ 高知大学ホームページ (大学案内) https://www.kochi-u.ac.jp/outline/kouhou/daigaku_annai.html (※上記 URL からデジタルパンフレット入手可能)
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)		
人文社会科学部	人文社会科学科	535,800円	282,000円	10,000円	経済学会費(社会科学コースのみ4か年分)		
教育学部	学校教育 教員養成 課程			60,000円	保育実習経費(幼児教育コースのみ)		
理工学部	数学物理 学科			0円			
	情報科学 科			0円			
	生物科学 科			0円			
	化学生命 理工学科			0円			
	地球環境 防災学科			0円			
医学部	医学科			25,000円	共用試験受験料		
	看護学科			2,000円	看護学会会費		
農林海洋 科学部	農林資源 環境科学 科			0円			
	農芸化学 科			0円			
	海洋資源 科学科			0円			
地域協働 学部	地域協働 学科					60,000円	フィールド実習費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>1. アドバイザー教員制度 高知大学のアドバイザー教員はアドバイザー(学生)が学生生活を送るうえでの困りごとや、進学～就職のことなどに関する相談相手となっている。各学部で特長のあるアドバイザー教員制度を整えているが、その機能充実に向けて、学生総合支援センターは全学的な立場から継続的に検討を重ねている。また、学生支援課には「学生何でも相談室」、保健管理センターには「こころの相談室」がありメンタル面の相談も受け付けている。</p> <p>2. 修学支援ユニット、インクルージョン支援推進室、キャリア形成支援ユニットで構成される学生総合支援センターは、学生支援課(就職室、学生何でも相談室ほか)及び各学部、保健管理センター、次世代地域創造センター等と連携して、学生の修学及び生活に関する支援、障害学生に対する支援、キャリア教育や就職活動・インターンシップ等の支援等に取り組んでいる。 (参照: 高知大学 HP HOME > 病院・附属施設 > 学生総合支援センター > 概要・組織体制 > センター長あいさつ)</p> <p>(1) 学生総合支援センターには修学支援ユニットを置き、すべての学生を対象に大学の授業で学ぶために必要な基本的スキルのサポートを行う。例えば、レポート作成でつまづかないようにレポート作成セミナーを開催し、また個別指導も分野によっては実施してい</p>
--

る。ここでは、学生指導の中心となるアドバイザー教員制度の適切な仕組みづくり、学生対応の基本姿勢について理解を深める活動も行っている。修学支援ユニットの主な業務内容としては、①成績不振等支援を要する学生の対応、アドバイザー教員制度の充実等、関係部局等と連携した修学支援体制の整備、②修学環境向上のための企画開発・点検・整備、③学生総合支援センターと学内及び学外とのコーディネート等を行う。

(2) 身体機能や感覚機能の疾病・障害などにより修学上の支援ニーズがある学生、コミュニケーションの苦手さやこだわりの強さなどによって修学で困っている学生、その他さまざまな修学上の問題を抱える学生を支援するため、学生総合支援センターにインクルージョン支援推進室を置き、支援を必要とする学生が所属する学部や大学院と連携協力して支援を行っており、保健管理センターや学生何でも相談室とも連携して、学生一人ひとりのニーズを専門的な立場から把握し支援方法を検討する。インクルージョン支援推進室は、①支援に関する情報発信、②受け入れに関する方針の実施、③支援に関わるボランティア活動の支援、④関係機関との連携、⑤支援に関する調査・研究及び支援教材の開発を主な業務としている。

(3) 一方、学生の所属学部又は研究科においては、教員を中心としたグループを組織して修学上支援を必要とする学生への支援を行っており、インクルージョン支援委員会及びインクルージョン支援推進室を設置して対応している。状況によっては入学が決定した時点で、利用する学内施設等を支援担当者と共に現場で確認し、必要とされる配慮や設備環境の充実などについて具体的に検討する。なお、学科や研究室単位では、支援グループを中心として、場合によっては周囲の学生の協力を得る。また、通常は配慮や支援を特に必要としない場合でも、問題が生じた場合に迅速な対応が取れるよう、本人の了解のもとに保健管理センターによる面談で状況を把握する体制としている。

例えば、利用できない教室があるなど、配慮が必要であると判断された場合は、履修案内を早目に配布して利用可能な教室の確保を行い、履修科目についての個別相談を実施し、必要であれば履修登録後に授業担当教員との面談を行い、学習支援方法に関する細部を確認している。

高等学校までの支援を継続するために、高等学校における支援内容、個別的教育支援計画及び個別の指導計画を引継ぐことが可能としている。大学移行をスムーズにするためには事前相談を行うことも可能で、それぞれの学生の状態に応じた支援内容を話し合う。障害のある方が利用できるトイレやエレベーターについては、現在ほとんどの建物に設備しており、教室や自学自習室には車椅子のまま利用できる机を設備している。

(参照：高知大学 HP HOME > 病院・附属施設 > 学生総合支援センター

<http://www.kochi-u.ac.jp/facilities/gakusei-shien>

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

1. 就職室(学生支援課)を窓口とし、①就職等進路に関する相談(専門的な知識・経験を有する就職相談員が、自己分析・企業・教職等について、あらゆる相談に応じる)、②人事コンサルタント、就職相談員の企画・監修により、就職活動に取り組むためのガイドブック「Ambitionー高知大学就職ガイドブック」を作成し3年生・修士1年生の春に配布、1・2年生へは貸出を行う。③3年生の4月からスタートし、就職活動の心構えから、エントリーシート・履歴書の書き方、会社訪問のアドバイスなど、様々なガイダンスを企画・実施している。就職活動に取り組む際の心構えや、公務員・教員採用試験についての説明会、企業採用担当者による業界研究・合同会社説明会の開催、エントリーシートの書き方やビジネスマナーのような実践講座など、テーマと時期を考慮したガイダンスを実施している。④県内外企業8,000社以上の求人情報は、学内WEBシステム「高知大学求人検索システム・高知大就職ナビ」から見る事ができる。企業から送られてきたパンフレット等がある場合は、就職室のファイルを自由に閲覧できる。⑤採用選考試験に係る対策本や企業研究書籍、教員採用試験・公務員試験問題集、その他参考図書・雑誌の閲覧・貸出を実施

しているほか、会社説明会の開催、学内 WEB システムでの情報発信、就職活動を終えた学生が企業情報、試験内容、内定までの行動経過等を記入した資料の閲覧を実施している。

2. 岡豊キャンパス／学生課では、求人等の就職関係情報について、臨床研修医に関しては学生課、保健師・看護師に関しては看護学科棟の就職情報コーナーに常置し自由に閲覧できる体制としている。アドバイザー教員、学生課へ相談できる。

3. 物部キャンパス／物部総務課学務室では、農学系関係の求人情報、企業データ等が閲覧でき、各種の参考図書、雑誌は貸出しも行う。会社説明会、各種ガイダンスも実施している。アドバイザー教員、学務室へ相談できる。

(参照：高知大学 HP HOME > 就職支援 > 就職 > 就職支援

http://www.kochi-u.ac.jp/career/syuusyoku/syuusyoku_shien.html

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要) 高知大学は、高知大学安全・安心機構の一部門として保健管理センターを置き、学生の定期健康診断や、学生ならびに教職員の健康管理を支援する役割を担っており、朝倉と岡豊の各キャンパスに専属の医師、朝倉キャンパスには公認心理師が配置され、年間を通じて医療相談、内科的診療、メンタルヘルス維持のためのカウンセリング等を行っている。

婦人科の医師による医療相談も、朝倉キャンパスで月に1回行っているほか、骨密度測定、アルコールパッチテスト、メンタルヘルス講演会などの啓発活動も行う。朝倉キャンパスには、体成分測定装置や体力測定器が設置されており、スポーツジムの感覚で利用することも可能としている。

(参照：高知大学 HP HOME > 病院・附属施設 > 保健管理センター > 所長あいさつ

<http://www.kochi-u.ac.jp/hokekan/greeting.html>

【朝倉キャンパス】

内科医による、診察・投薬・ケガの処置等や相談を行っており、婦人科医による相談も毎月1回（8月と3月は除く）行う。精神科医や公認心理師のカウンセリングを利用でき、看護師も相談（よろず相談）に応じる体制としている。

(参照：高知大学 HP HOME > 病院・附属施設 > 保健管理センター > こころの相談室
> 朝倉キャンパス

<http://www.kochi-u.ac.jp/hokekan/campus/asakura.html#kokoro>

【物部キャンパス】

内科医による診察や相談を毎月2回（4月と9月は1回）行っている。毎月1回（8月と3月は除く）行っている朝倉キャンパスでの婦人科相談日の予約も可能である。精神科医や公認心理師及び臨床心理士のカウンセリングを利用できる。また看護師も相談（よろず相談）に応じる体制としている。

(参照：高知大学 HP HOME > 病院・附属施設 > 保健管理センター > こころの相談室
> 物部キャンパス

<http://www.kochi-u.ac.jp/hokekan/campus/monobe.html#kokoro>

【岡豊キャンパス】

・保健管理センター医学部分室では精神科医や公認心理師のカウンセリングを利用できる。また看護師も相談（よろず相談）に応じる。

・医師や看護師等を養成する医学部があることから、臨床実習における感染症対策として、以下の対策を実施している。

① 感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の既往歴及びワクチン接種歴、抗体価を確認

② B型ワクチン接種を実施し（3回）、その後抗体価検査を実施し、十分な抗体がある

かを確認

③ 結核対策のため、胸部レントゲン検査を実施

- ・学内で体調不良や怪我をした時には保健管理センター医学部分室で応急手当を受けることができる。保健管理センター医学部分室で処置できないと判断した時は、本学附属病院または外部医療機関を紹介している。
- ・健康相談を受け付け、病状によっては、本学附属病院または外部医療機関を紹介している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：高知大学ウェブサイト（教育情報の公表）

<https://www.kochi-u.ac.jp/kyoikujoho/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F139110110504
学校名	高知大学
設置者名	国立大学法人高知大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		538人	533人	580人
内 訳	第Ⅰ区分	295人	287人	
	第Ⅱ区分	152人	159人	
	第Ⅲ区分	91人	87人	
家計急変による支援対象者（年間）				一人
合計（年間）				580人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	一人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	21人		
計	21人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	前半期	後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	一人		
G P A等が下位4分の1	47人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	47人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。